

IMABOU SITE
今 房 遺 跡

(第2次調査)

2004年3月

宮崎県都城市教育委員会



南東からの遺跡遠景（上方：霧島山 遺跡は下方の道路沿い）



竪穴住居跡（SA 01）床面から出土した土器

序 文

この報告書は、緊急地方道路整備事業今房・和田線道路改良工事に伴い、都城市教育委員会が実施した都城市横市町に所在する今房遺跡の第2次発掘調査報告書です。

平成14年の10月から平成15年1月にかけて実施した発掘調査の結果、主に弥生時代の遺構・遺物が発見されました。

本書は、これらの文化財を記録として後世に伝えることを目的として作成しました。本書が、郷土の歴史を理解するための資料として活用されることを願っています。

最後に、発掘作業に従事していただいた作業員の皆様をはじめ、現場における調査や出土品の整理作業から報告書作成に至るまで、ご指導・ご協力いただきました関係各機関、多くの先生方に心より厚くお礼申し上げます。

平成16年3月

都城市教育委員会

教育長 北村秀秋

例　　言

- 1 本書は緊急地方道路整備事業今房・和田線道路改良工事に伴い、平成14年度に実施した今房遺跡（第2次調査）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は都城市教育委員会が主体となり、同市文化課主事久松亮が担当した。
- 3 遺構実測図の作成は、作業員の協力を得て、都城市教育委員会文化課主事横山哲英・久松亮が行い、すべてのトレースは久松が行った。また、遺構分布図の作成及び遺物の取上げにはテクノ・システム株式会社の遺跡調査システム“S I T E”を使用した。
- 4 本書に用いた方位は、座標北であり、レベルは海拔絶対高である。
- 5 本書に掲載した遺物実測図の作成は伊鹿倉康子・奥登根子・水光弘子・谷口和代が行い、トレースは久松が行った。
- 6 遺構・遺物の写真撮影は、久松が行った。
- 7 空中写真撮影は九州航空株式会社に委託した。
- 8 炭化物の年代測定については、㈱古環境研究所に委託した。測定法は β 線計数法と加速器質量分析法である。測定結果は過去の宇宙線強度の変動による大気中 ^{14}C 濃度の変動を校正することにより算出した年代（西暦）で、校正には、年代既知の樹木年輪の ^{14}C の詳細な測定値、およびサンゴのU-Th年代と ^{14}C 年代の比較により作成された校正曲線を使用した。本文中に示した年代幅は、補正 ^{14}C 年代値（試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比 $(^{13}\text{C}/^{12}\text{C})$ から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正值を加えた上で算出した年代）の偏差の幅を校正曲線に投影した曆年代の幅（68%確率）を示す。したがって、複数の値が表記される場合もある。
- 9 本書に用いた略記号は次の通りである。

S A	-	竪穴住居跡	S B	-	掘立柱建物跡	S C	-	土坑
S D	-	溝状遺構	S S	-	集石遺構	S T	-	周溝状遺構
- 10 出土遺物・写真・図面記録等は、都城市文化課第1・第2分室および都城市文化財収蔵庫に保管されている。

本文目次

第1章 はじめに	
1 調査に至る経緯	1
2 調査体制	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第3章 調査の記録	
1 調査の概要	3
2 基本層序	3
3 遺構と遺物	
SA 0 1	5
SA 0 2	14
SA 0 3	18
SA 0 1・0 2・0 3の前後関係について	18
SA 0 4, SC 0 1	20
SC 0 2	21
ST 0 1	24
ST 0 2	25
SD 0 1, SD 0 2	29
SD 0 3, SD 0 4, SD 0 5, SD 0 6	30
SD 0 7	31
SB 0 1, SB 0 2	32
SS 0 1	33
包含層出土遺物について	33
第4章 おわりに	34
出土遺物観察表	35
炭化物年代測定一覧表	44

図版目次

図版1 調査風景と調査区全景	45
図版2 SA 0 1	46
図版3 SA 0 2	47
図版4 SA 0 3・0 4	48
図版5 SA 0 4, SC 0 1・0 2	49
図版6 ST 0 1	50
図版7 ST 0 2	51
図版8 SD 0 1～0 5	52
図版9 SD 0 6・0 7, SB 0 1・0 2	53
図版10 掲載遺物1	54
図版11 掲載遺物2	55
図版12 掲載遺物3	56
図版13 掲載遺物4	57
図版14 掲載遺物5	58

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	2
第2図 基本土層図	3
第3図 グリッド配置図	4
第4図 遺構分布図	4
第5図 SA 0 1 実測図	5
第6図 SA 0 1 出土遺物実測図（1）	7
第7図 SA 0 1 出土遺物実測図（2）	8
第8図 SA 0 1 出土遺物実測図（3）	9
第9図 SA 0 1 出土遺物実測図（4）	10
第10図 SA 0 1 出土遺物実測図（5）	11
第11図 SA 0 1 出土遺物実測図（6）	12
第12図 SA 0 1 出土遺物実測図（7）	13
第13図 SA 0 2 実測図	14
第14図 SA 0 2 出土遺物実測図（1）	15
第15図 SA 0 2 出土遺物実測図（2）	16
第16図 SA 0 2 出土遺物実測図（3）	17
第17図 SA 0 3 及び SA 0 3 出土遺物実測図	18
第18図 SA 0 1・0 2・0 3 出土遺物実測図	18
第19図 SA 0 1・0 2・0 3 土層断面図	19
第20図 SA 0 4 及び SA 0 4 出土遺物実測図	20
第21図 SC 0 1 及び SC 0 1 出土遺物実測図	20
第22図 SC 0 2 実測図	21
第23図 SC 0 2 出土遺物実測図（1）	21
第24図 SC 0 2 出土遺物実測図（2）	22
第25図 SC 0 2 出土遺物実測図（3）	23
第26図 ST 0 1 及び ST 0 1 出土遺物実測図	24
第27図 ST 0 2 実測図	25
第28図 ST 0 2 出土遺物実測図（1）	26
第29図 ST 0 2 出土遺物実測図（2）	27
第30図 ST 0 2 出土遺物実測図（3）	28
第31図 SD 0 1 土層断面図	29
第32図 SD 0 2 及び SD 0 2 出土遺物実測図	29
第33図 SD 0 3・0 4・0 5 実測図	30
第34図 SD 0 6・0 7 及び SD 0 6・0 7 出土遺物実測図	31
第35図 SB 0 1 及び SB 0 1 出土遺物実測図	32
第36図 SB 0 2 実測図	32
第37図 SS 0 1 及び SS 0 1 出土遺物実測図	33
第38図 包含層出土遺物実測図	33

第1章 はじめに

1 調査に至る経緯

平成14年7月2日、「緊急地方道路整備事業今房・和田線道路改良工事」に伴う埋蔵文化財の有無の照会が、都城市土木課より同市教育委員会になされた。当該開発予定地は「県営担い手育成基盤整備事業横市地区」に伴い、平成11年度に発掘調査が実施された今房遺跡の隣接地にあたるため、同市文化課は平成14年7月8日～9日にかけて、開発予定地の確認調査を実施した。その結果、現在宅地となっている開発予定地北側では遺構・遺物が確認できなかったが、開発予定地南側、沖積世の低位河岸段丘の端部付近には現道下も含めて遺跡が遺存していることが確認された。これを受け、両課で文化財の保護策について協議を行った結果、記録保存のための発掘調査を実施することとなり、平成14年度に発掘調査を実施、平成15年度に報告書を刊行することとなった。

2 調査体制

発掘調査は以下の体制でを行い、経費の運用は都城市教育委員会文化課であった。

都城市教育委員会

教育長 北村秀秋

文化課 課長 井尻賛治

課長補佐 坂元昭夫

係長 松下述之（平成14年度） 欠部喜多夫（平成15年度）

調査担当 主事 久松 亮

発掘作業員 岩切ユキ子 小山田福子 蒲生ミッ子 庄屋幸子 立山君子 津曲節子 徳丸ヒサ子

中原貞良 中原忠珍 平山甲子郎 藤井修子 藤田フヂ子 二見義彦 南スミ子

馬籠恵子 宮元孝子 山元勝

整理作業員 伊鹿倉康子 大坪真知子 奥登根子 小浜ひろ子 児玉信子 水光弘子 谷口和代

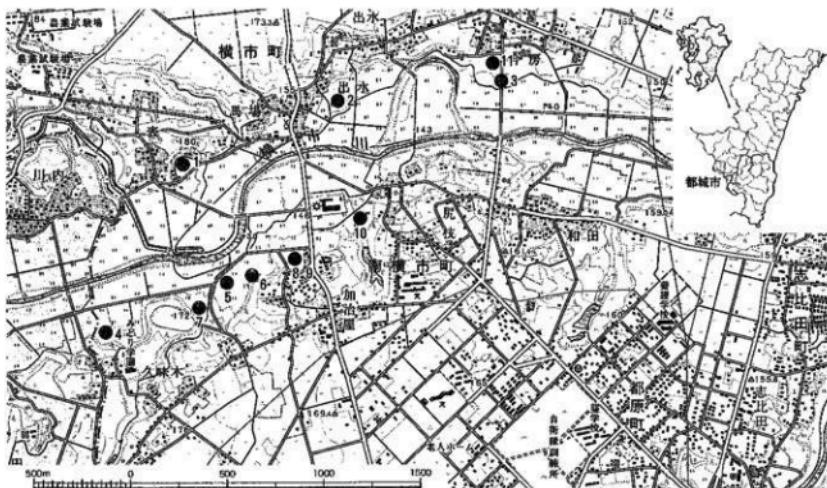
福岡八重子 前田町子 丸崎千鶴子 吉留優子 渡司ちさ子

第2章 遺跡の位置と環境

今房遺跡の第2次調査区は宮崎県都城市横市町5836-1外に所在する。都城市は宮崎県の南西端、東から南は鶴塚山、柳岳を主峰とする鶴塚山地に、北西は霧島山系に囲まれた都城盆地のほぼ中央に位置している。都城盆地は大淀川がその支流を集めながら南から北へ流れているが、当遺跡はその支流の横市川の左岸、旧河道沿いに形成された沖積段丘面の標高約142mの地点に位置している。

横市川の流域は平成5年度に県営は場整備事業（平成9年度より県営担い手育成基盤整備事業に移行）の実施が採択され、宮崎県文化課が事業対象区域約144ヘクタールに分布調査を実施したところ、10遺跡約44ヘクタールの埋蔵文化財包蔵地が確認された。協議の結果、削平を受ける部分については、都城市文化課が記録保存のための緊急発掘調査を実施することとなり、平成8年度より発掘調査が実施されている。

横市地区遺跡群と称されるこの遺跡群からは、縄文から近世に至るまでの幅広い年代の遺構・遺物が確認されている。特に、坂元A遺跡の縄文晚期後半頃の土器を伴う水田区画や、加治屋B遺跡の13～14世紀初頭頃の在地領主の館跡と考えられる大型建物跡など、貴重な発見が相次いでいる。



番号	遺跡名	調査面積	調査年度	主な時代と成果
1	鶴崎遺跡	8,100 m ²	平成8・9年度	古墳時代の集落跡・中世の館と水田跡
2	肱穴遺跡	15,000 m ²	平成10年度	縄文時代～近世の集落跡と水田跡
3	今房遺跡 (第1次調査)	3,110 m ²	平成11年度	弥生時代の集落跡・中世の水田跡
4	馬渡遺跡	9,900 m ²	平成11・12年度	弥生時代の集落跡・平安時代の居宅跡
5	坂元A遺跡	2,800 m ²	平成12年度	縄文時代～近世の水田跡
6	坂元B遺跡	6,300 m ²	平成12年度	縄文時代～近世の集落跡・中世の墓跡
7	江内谷遺跡	3,100 m ²	平成12年度	平安時代の集落跡・水田跡
8	加治屋B遺跡 (第1次調査)	11,000 m ²	平成13年度	弥生時代の集落跡・中世の館跡
9	加治屋B遺跡 (第2次調査)	10,000 m ²	平成14年度	弥生時代、平安時代の集落跡・中世の船跡
10	星原遺跡	6,500 m ²	平成14年度	古墳時代、平安時代の集落跡・古代の墓跡
11	今房遺跡 (第2次調査)	1,380 m ²	平成14年度	弥生時代の集落跡

第1図 遺跡位置図

第3章 調査の記録

1 調査の概要

今回拡幅工事の行われる市道今房・和田線は道幅の割に交通量が多く、また小・中・高校への通学路でもあるため、通行規制は可能な限り最小限の期間に抑える必要があった。そのため、調査区を拡幅部分と現道下の2つに分け、まず拡幅部分の調査を実施し、その終了後に歩行者・自転車用の仮設道路を設置した上で現道のアスファルトを撤去、現道下の調査を実施することとした。なお便宜上、道路拡幅部分の調査区をA区、現道下の調査区をB区とした。

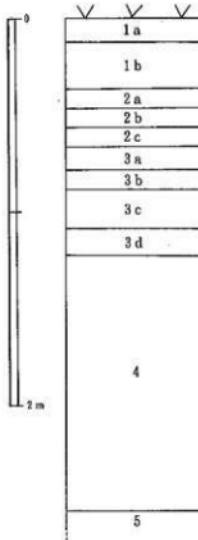
A区・B区とも重機で表土を剥いだ後（B区では、使用中に調査・工事期間中に給水を止めた水道管のほかに、もう1本古い石綿製の水道管が敷設されていたため、それを除去しながらの表土剥ぎとなった）、遺物包含層を人力にて掘り下げ、御池降下軽石層上で遺構の検出を行った。調査記録のため、10mグリッドを設定し、西から東にアルファベットでA・B、北から南に算用数字で1・2・3…とし、その組み合わせで各グリッドを呼称した。なお、B区のグリッドB7付近から南側では道路敷設による削平が御池降下軽石層上まで及んでおり、A区で確認できた遺構の続きを確認できない場合もあった。

A区からは、竪穴住居跡3基（SA01～03）、周溝状遺構1基（ST01）、掘立柱建物跡2棟（SB01・02）、溝状遺構5条（SD01～05）、土坑1基（SC01）、集石遺構1基（SS01）を検出した。B区からはSD02・05の続きの溝状遺構を検出したほか、新たに2条の溝状遺構（SD06・07）、1基の竪穴住居跡（SA04）、ST01の続きの周溝状遺構と新たな周溝状遺構（ST02）、土坑1基（SC02）を検出した。A区で検出した3基の竪穴住居跡（SA01～03）の続きも検出できたものの、道路と前述の2本の水道管の敷設のため、ほとんどの部分が失われていた。

2 基本層序

今房遺跡の第2次調査区域の層序は基本的には、第1層：表土と道路敷設・耕地整備等による盛土層、第2層：文明降下軽石（桜島起源の降下軽石、文明年間・15世紀後半に噴出）を含む旧耕作土と耕作基盤層、第3層：遺物包含層となる黒色粘質シルト層、第4層：御池降下軽石層（霧島山系御池火口起源の降下軽石、約4,200年前に噴出）、第5層：暗灰色粘質土…と続く。今回調査したのは第4層上面までである。

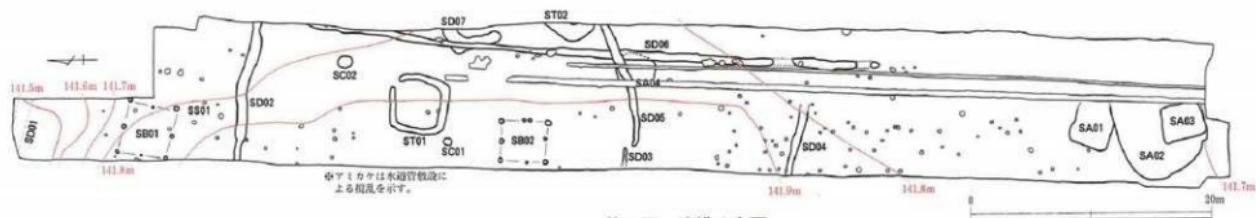
- 1 a層 現表土
- 1 b層 盛土
- 2 a層 黄白色パミスをまばらに含む暗赤褐色シルト層
- 2 b層 黄白色・白パミスをまばらに含む暗赤灰色シルト層
- 2 c層 白パミスを含む暗赤褐色砂質シルト層
- 3 a層 黄白色パミスをまばらに含む黒色弱粘質シルト層
- 3 b層 黄白色パミスをまばらに含む黒褐色弱粘質シルト層
- 3 c層 黄白色パミスをまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- 3 d層 黄白色パミスを多量に含む黒褐色弱粘質シルト層
（御池降下軽石層への漸移層）
- 4 層 御池降下軽石層
- 5 層 暗灰色粘質土層



第2図 基本土層図



第3図 グリッド配置図



第4図 遺構分布図

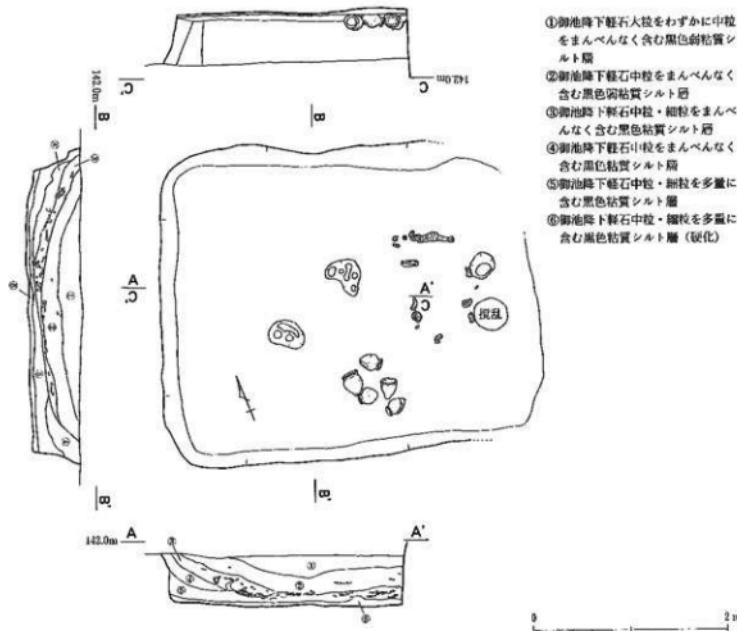
3 遺構と遺物

S A 0 1

調査区南側のグリッド A10で検出した堅穴住居跡である。東側は道路の敷設工事により破壊をうけ、床面のみ遺存していた。また東側は電柱のようなものが敷設されていた痕跡もあり、さらに東端は水道管の敷設により完全に破壊されていた。確認できる範囲から推測すると、長軸4m、短軸3.2mの長方形プランである。床面は硬く締まり、5~6cm程度の貼床が認められる。明確な柱穴は検出できなかった。南側で一部 S A 0 2 に切られている。

貼床の直上に5個のほぼ完形の遺物が出土したほか、炭化材を含む非常に多くの遺物が出土している。遺物は住居跡内にレンズ状に堆積していることから、住居としての機能が終了し、ある程度埋没した後の窪地を、土器等の廃棄場として利用したものと思われる。遺物取上げの際には、埋土の上層・中層・下層と、貼床面直上及び貼床除去中に出土したものを最下層として、可能な限り分類して取上げた。下層出土の遺物でも上層出土の遺物と接合する例も多いことから、この住居跡が廃棄場として機能していた期間はそれほど長いものではないと考えられる。

出土した炭化材に年代測定を行った結果、埋土中層より出土した炭化材はBC40~AD90頃、埋土下層より出土した炭化材はBC50~AD30頃との測定結果を得た。



第5図 S A 0 1 実測図

1～35は埋土上層から出土した遺物である。

1は把手付椀で器面に指による調整痕を明瞭に残している。2は鉢の口縁部から胴部で外面にススが付着している。3・4は高坏の脚部で3はST 0 2上層出土の土器片と、4はSA 0 2上層出土の土器片と接合し、外面はミガキにより調整されている。5は器台で外面はミガキにより調整されている。ほぼ半分が遺存しており、その状態で確認できる透かしは上部3、下部2である。

6は甕で、ややあげ底気味の底部が剥落しているのを除けば、ほぼ復元できた。内外面ともナデで調整されており、口縁部には指頭痕が確認できる。胴部から底部にかけてススが付着している。7も甕で、口縁部の一部を欠き底部が剥落しているが、その他は復元できた。8～18は甕の口縁部から胴部で、9と13を除いて外面にススが付着している。10は貼付の刻目突帯がめぐり、刻目には布痕のような痕跡が確認できる。外面にはススが付着している。19～25は甕の底部である。19・20・24は外面に、21は内面に指頭痕が確認できる。

26～29は壺の口縁部から胴部である。30は壺の口縁部～底部で横方向の線刻が施されている。31、32は壺の胴部で外面に線刻が施してある。35は軽石製品で、全面に粗い研磨がなされている。

36～71は埋土中層より出土した遺物である。

36～38はミニチュア土器で36は指による調整痕を明瞭に残している。37・38の表面はナデにより調整されており、36のように明瞭な指による調整痕を残してはいない。このため36とは違う用途が考えられる。39は高坏の坏部で、口縁部にススが付着している。内外面ともナデで調整されているが、内面の下部はミガキによる調整がなされている。40の内面はナデで、外面はミガキで調整され、外面に線刻が施されている。また外面にススが付着している。壺の口縁部や甕の底部が剥落したものも考えられるが、概ではないかと思われる。

41は甕で口縁部から底部まではほぼ復元できた。口縁部から胴部にかけてススが付着している。42は甕の口縁部から底部である。43～50は甕の口縁部から胴部である。44・45・50を除いて外面にススが付着している。51～57は甕の底部である。54のみ丸底に近い形状をしいて、外面胴部中央にススが付着している。55の外面にもススが付着している。57の底部は層状に剥離していることから、ある程度乾いた後に粘土で補強したものが剥落したと考えられる。

58は高坏の脚部で外面は大部分磨耗しているが、ミガキにより調整されている。また内面に工具痕が確認できる。

59は長頸壺の口縁部で、外面はミガキにより調整されている。60は65と同じような長頸壺の胴部～底部であると思われる。内外面ともハケメで調整されている。61～64は壺の口縁部から胴部である。64は他の出土土器に比べて非常に大きい。口縁部は横ナデで胴部はミガキで調整されている。65は長頸壺で上層、下層出土の土器片と接合している。外面はミガキ、内面はナデで調整されている。66は壺の胴部から底部で内面の調整は磨耗剥落のため不明であるが、外面はナデで調整した後に三日月状の線刻が施されている。67は壺の胴部から底部でこれも他の出土土器に比べて大きい。内面の大部分は剥落しているがナデで調整されている。外面はミガキで調整され底部に黒斑がみられる。68はおそらく壺の底部で内外面とも工具ナデで調整され、外面の一部にハケメもみられる。平底に近い形状が特徴的である。

69は鉢で色調が他の土器に比べて赤みが強い。底部は上げ底気味だがつくりが粗く、指でつまみ出したようで安定性に欠けている。内面の大部分が剥離している。70、71は小片のため器種不明である。

72～92は埋土下層より出土した遺物である。

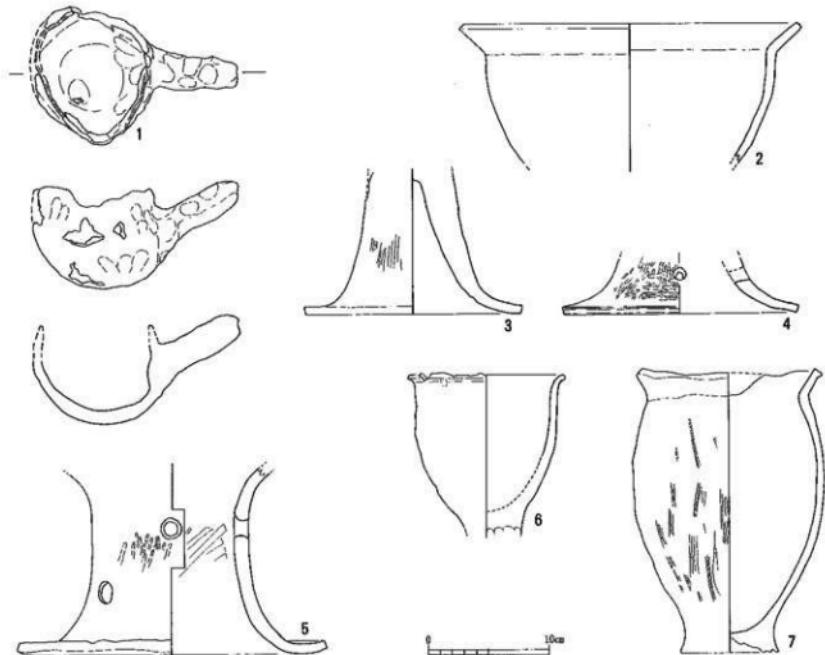
73は他のものと比較すると小型の甕で内外面ともミガキにより調整されている。72・74・75は甕の口縁部から胴部で外面にススが付着している。76は甕でSA 0 2上層出土の土器片とも接合している。77～79は甕の口縁部から胴部で、79の外面にはススが付着している。80は甕の口縁部から底部で、内外面ともハケメ調整がなされ外面にススが付着している。81・82は甕の口縁部から胴部で、82の外面にはススが付着している。83は甕の口縁部から胴部で、口縁部内面に指頭痕が確認できる。84は甕の口縁部から胴部で内外面ともナデで調整されており、内面に工具痕が確認できる。83・84とも外面にススが付着している。85は甕の底部である。

86は器種不明であるが、外面はミガキ、内面はハケメにより調整されていることとその器形から壺ではないかとおもわれる。なお86は上層出土の土器片とも接合している。87は石皿の一部で表面に敲打痕がある。88は底部が確認できないため確実ではないが、鉢であると思われる。

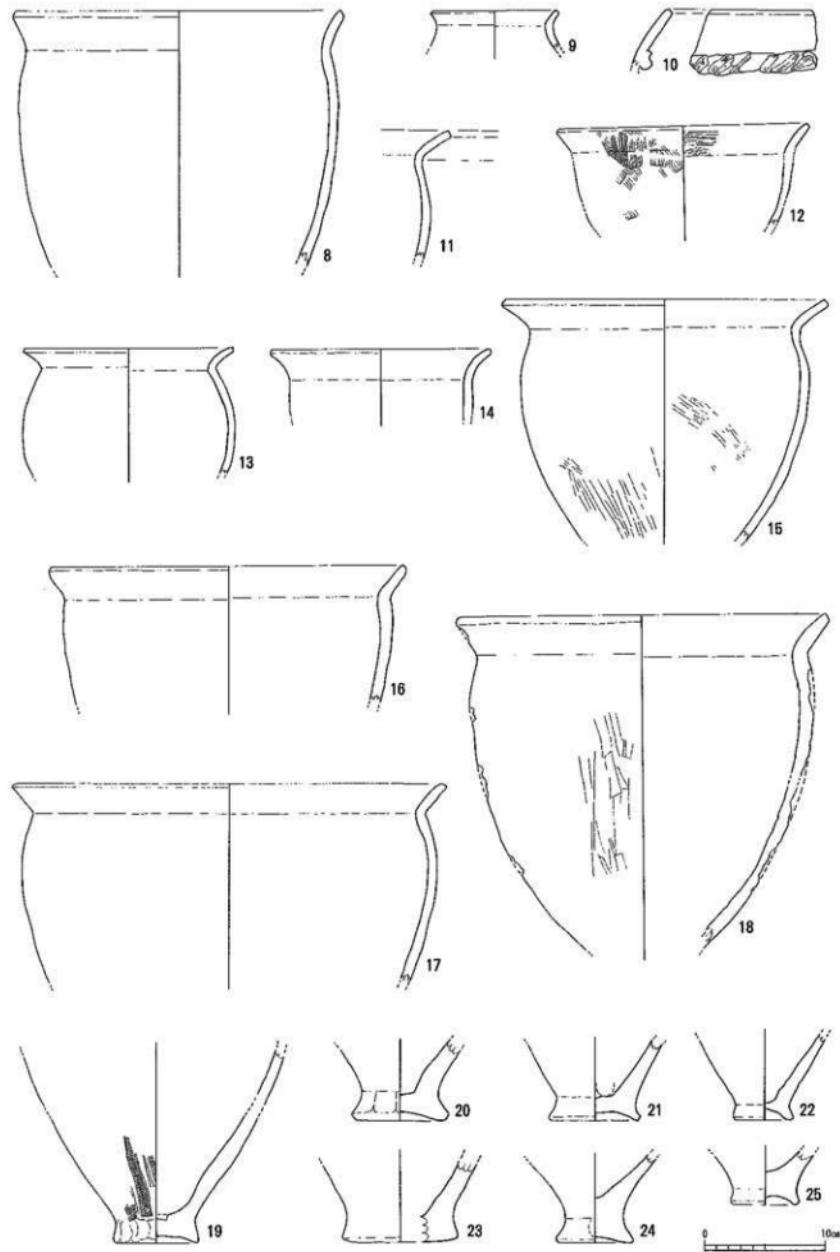
89は二重口縁壺の口縁部で櫛描波状文が確認できる。90は壺の底部で中層出土の土器片と接合している。91は壺の底部で中層にも同一固体の出土はあったが接合はしなかった。貼付けるようにつくられた底部がそのまま剥落している。92は壺の口縁部から胴部で上層・中層出土の土器片と接合している。

93～98は埋土最下層より出土した遺物である。

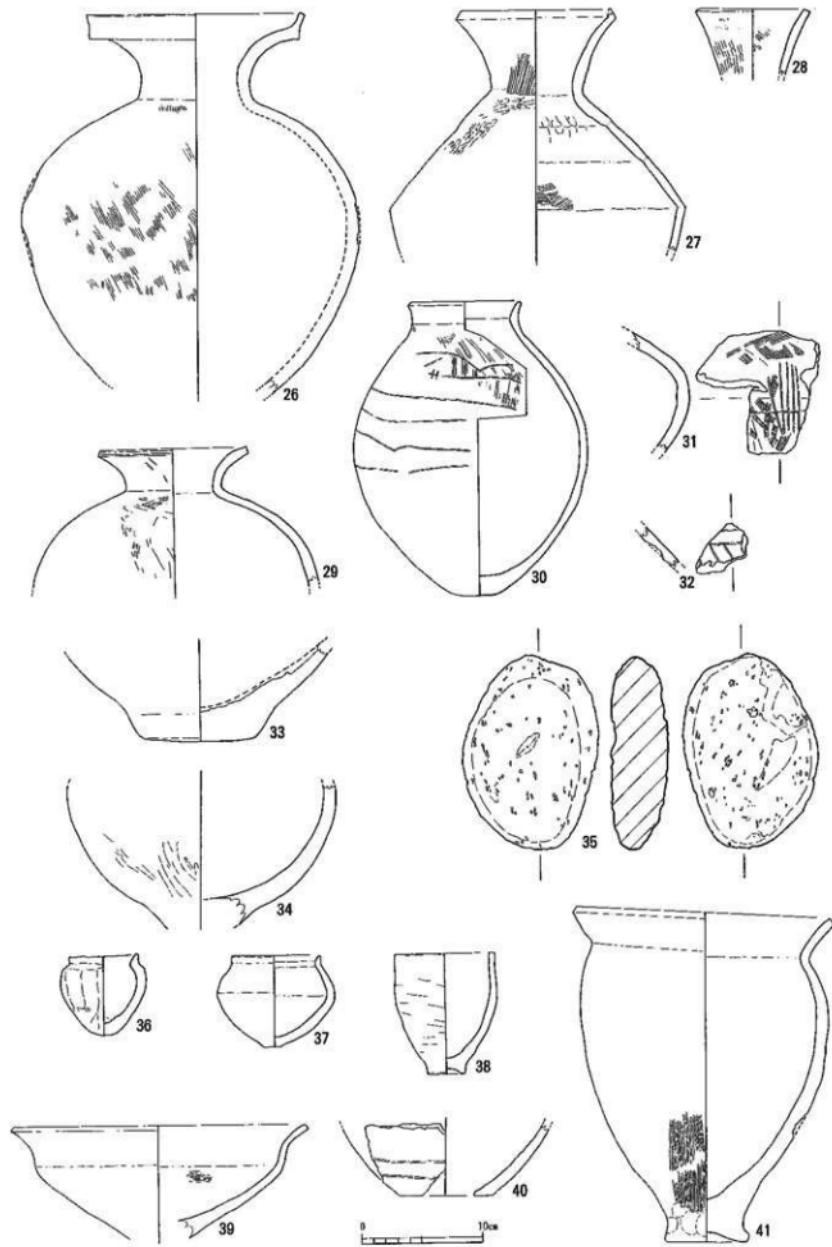
93は甕の口縁部から胴部で内面に工具痕が確認でき、外面にはススが付着している。94～98は貼床の直上で完形に近い状態で出土した（第5図参照）。94・95は甕で94は胴部に、95は胴部から底部にかけてススが付着している。96～98は壺である。96は口縁がやや傾いている。97・98にはともに、底部から胴部にかけて放射状に線刻が施されている。97にはその線と交差するように横方向にも線が刻まれている。98は口縁部から頸部にかけて、内側に粘土が継ぎ足され補強されている。



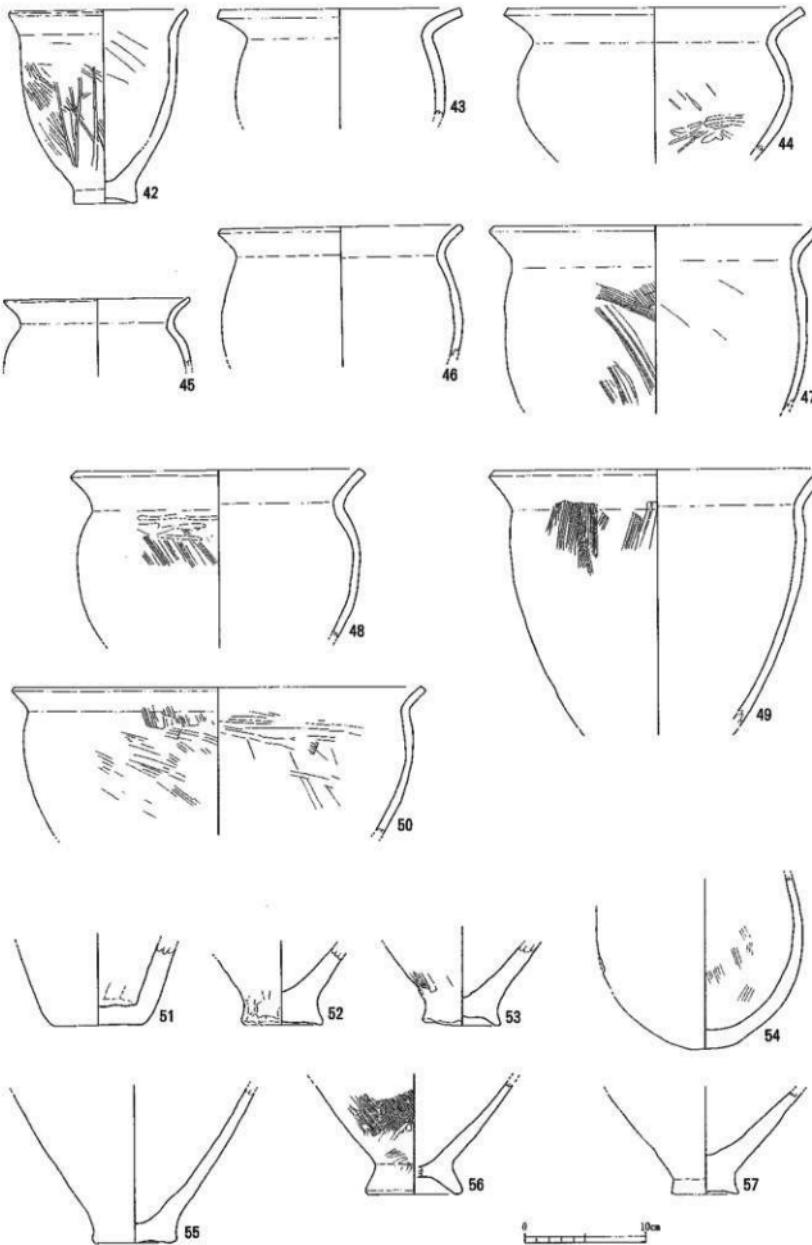
第6図 SA 0 1出土遺物実測図(1)



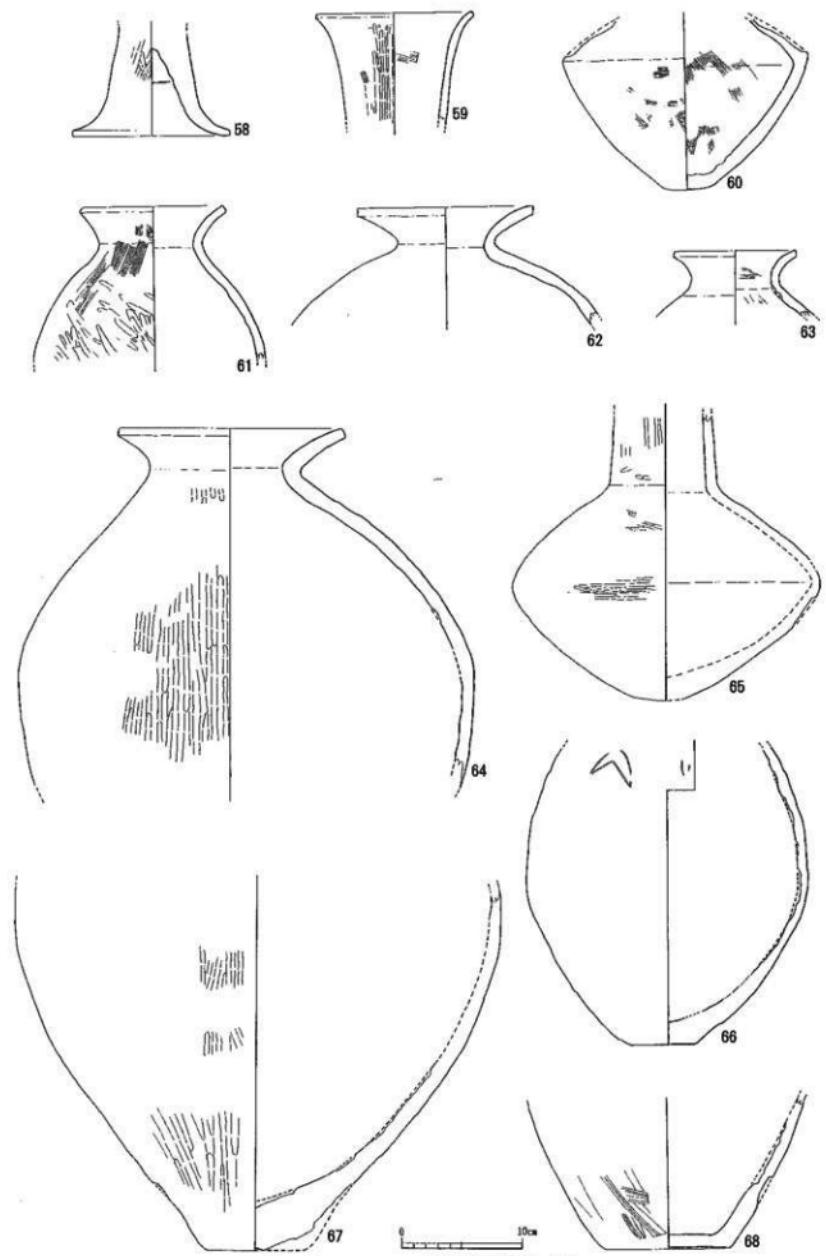
第7図 S A O 1 出土遺物実測図(2)



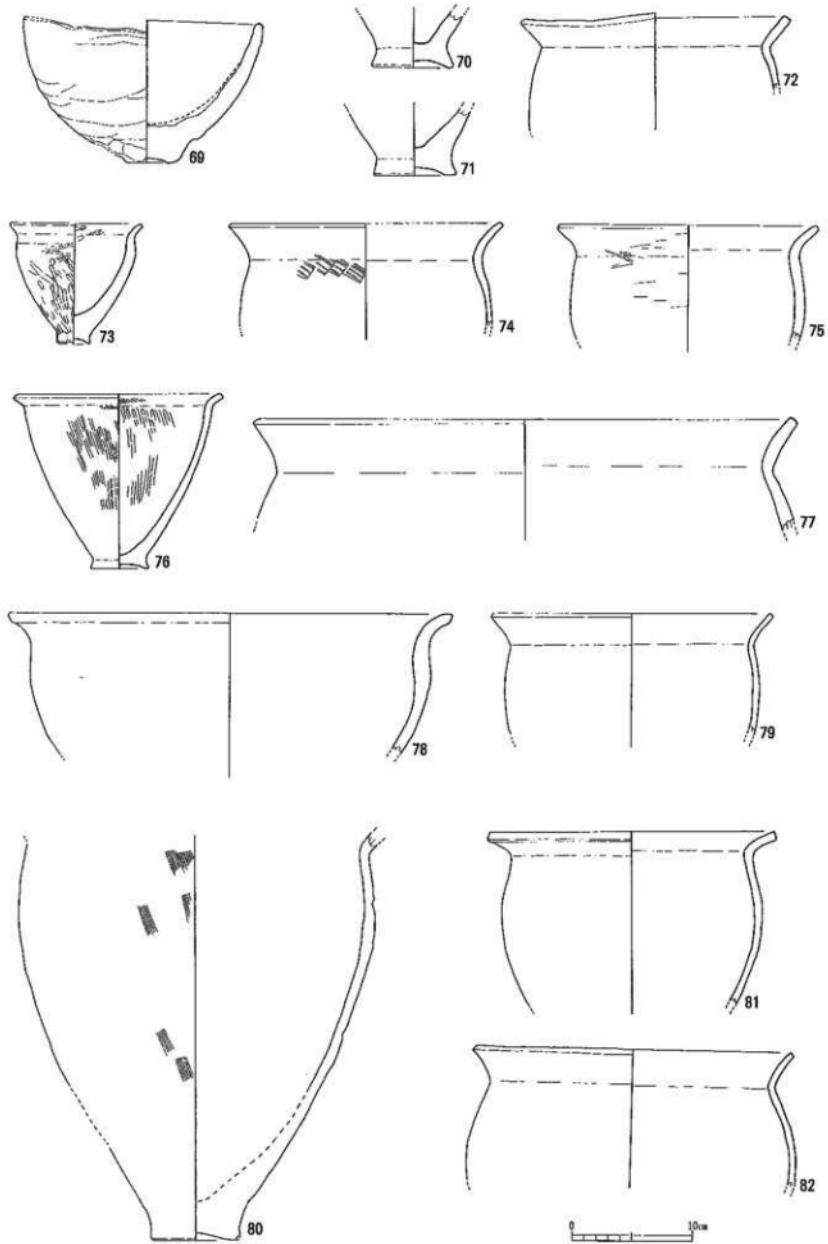
第8図 SA 01出土遺物実測図 (3)



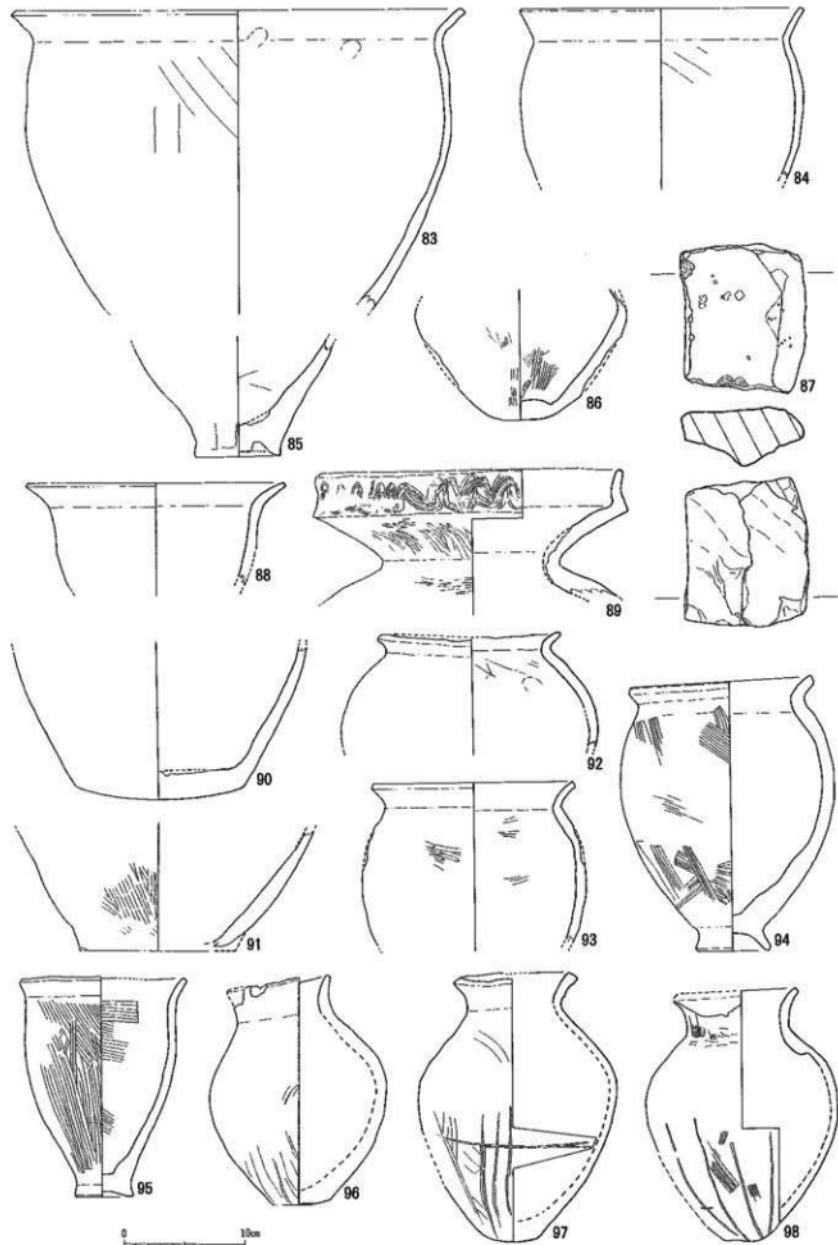
第9図 SA01出土遺物実測図(4)



第10図 S A 01 出土遺物実測図 (5)



第11図 S A 0 1 出土遺物実測図 (6)

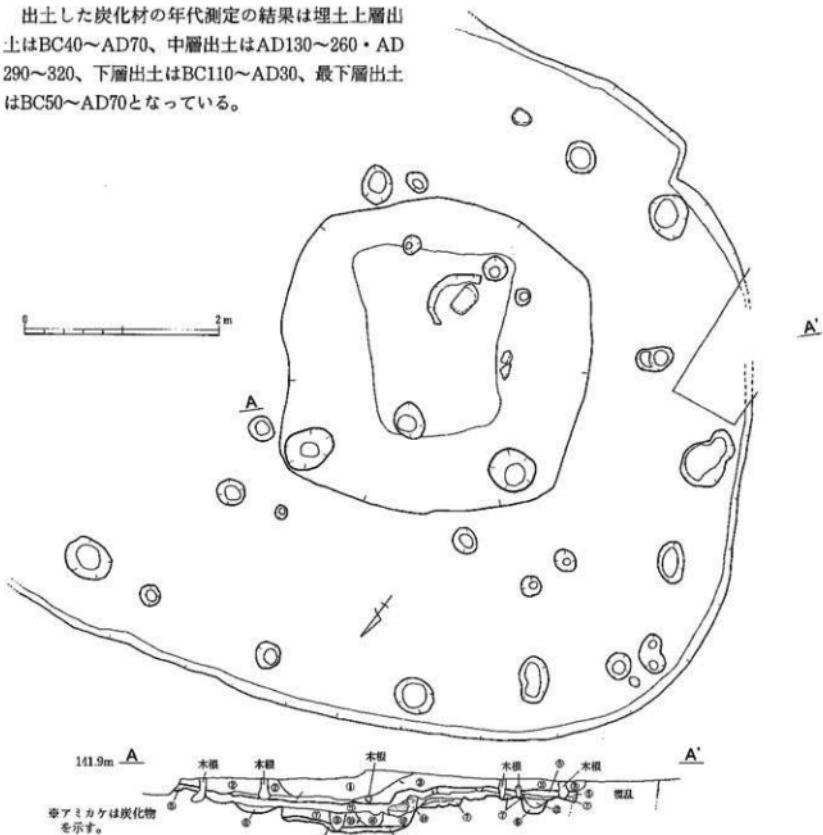


第12図 SA 0 1 出土遺物実測図 (7)

SA 0 2

調査区南側で検出した竪穴住居跡で、平面プランは橢円形と思われるが東側は現道により破壊されていた。中央部は周辺よりも低くなっている。主柱穴はその部分にある2基のピットと思われる。壁際に掘り込みの浅いピットがほぼ等間隔に並んでいる。床面は硬く締まり5~6cmの貼床が認められる。SA 0 3の上に作られ、北側ではSA 0 1を切っている。

出土した炭化材の年代測定の結果は埋土上層出土はBC40~AD70、中層出土はAD130~260・AD290~320、下層出土はBC110~AD30、最下層出土はBC50~AD70となっている。



- ①脚池跡下砾石大粒をまばらに中粒・小粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ②脚池跡下砾石小粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ③脚池跡下砾石中粒をまばらに小粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ④脚池跡下砾石小粒をわずかに含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑤脚池跡下砾石中粒・小粒を多量に含む黒褐色弱粘質シルト層（硬化）～SA 0 2の床面
- ⑥黒褐色弱粘質シルトを含む脚池跡下砾石中粒・小粒を多量に含む黒褐色弱粘質シルト層（硬化）
- ⑦脚池跡下砾石ブロック及び脚池跡下砾石中粒・小粒を多量に含む黒褐色弱粘質シルト層（硬化）
- ⑧脚池跡下砾石中粒をまばらに含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑨脚池跡下砾石中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層（硬化）～SA 0 3の床面
- ⑩脚池跡下砾石中粒をまんべんなく含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑪炭化物・脚池跡下砾石中粒をまばらに含む黒褐色弱粘質シルト層
- ⑫黒褐色弱粘質シルトを含む脚池跡下砾石中・小粒層

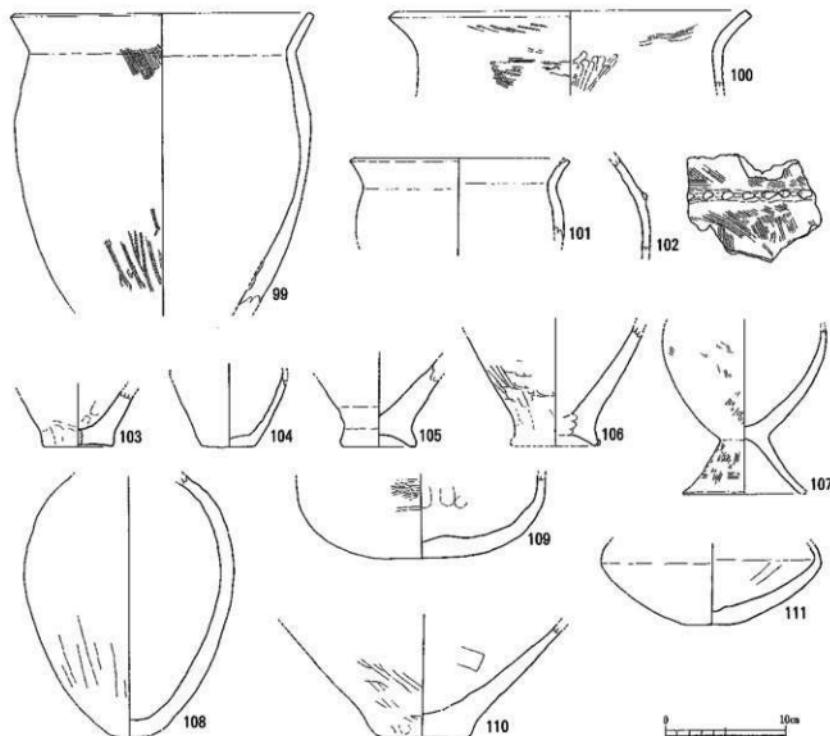
第13図 SA 0 2 実測図

99～113・115・121は埋土の上層から出土した遺物である。99～106は甕で99はS T 0 2 上層出土の土器片と接合している。102は胸部片で刻目突帯がめぐる。107は台付甕の胴部から底部である。108～111は甕の底部、112は甕の口縁部である。113の器種は不明であるが、外面に竹管によると思われる施文が施されている。115は砾石で各面に研磨痕が確認できる。121は甕の口縁部から胴部である。

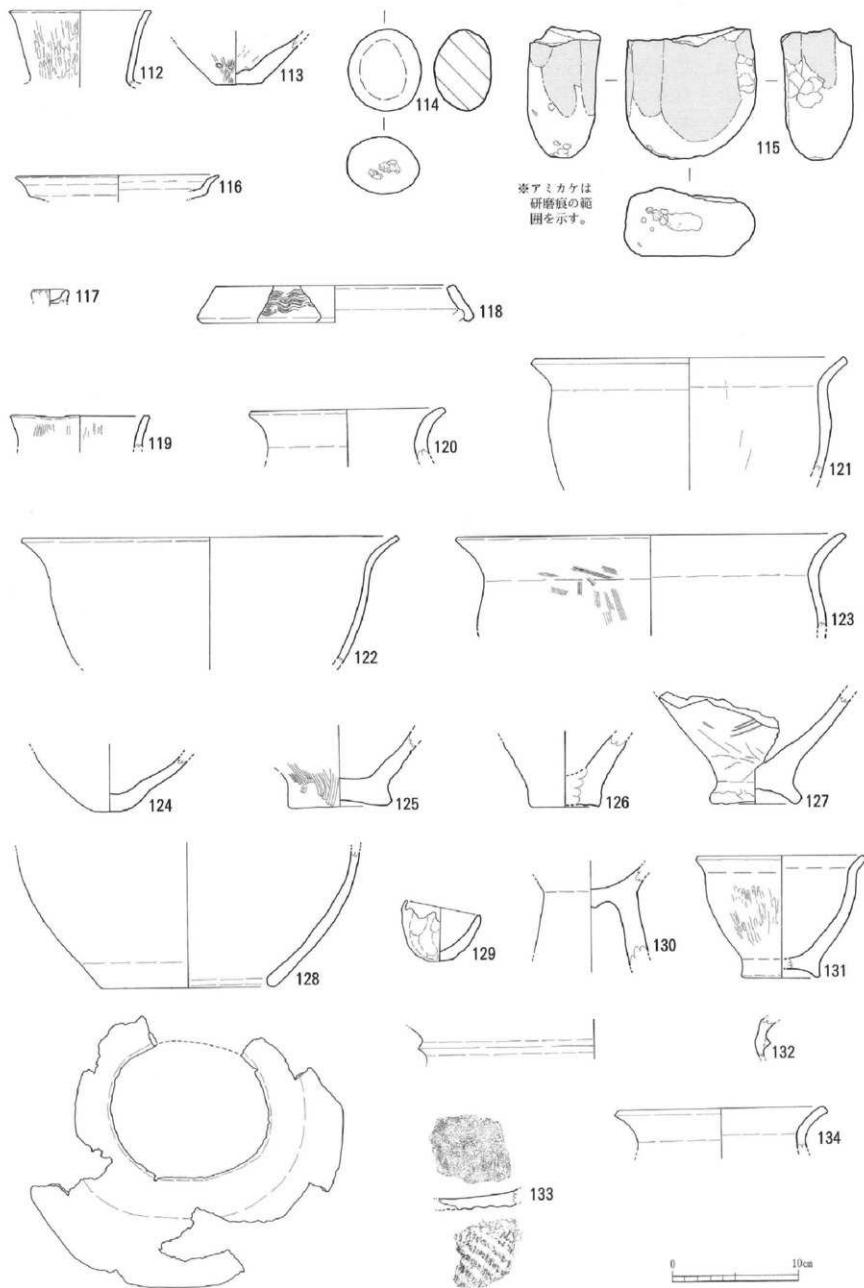
114・116・117は埋土のどの層から出土したかは明確ではない。114は敲石で敲打痕が確認できる。116は小片ではあるが高坏の坏部と思われる。117は手捏ねのミニチュア土器である。

118～120、122～136は埋土の中層から出土した遺物である。118は甕の口縁部で横描波状文が施されている。119～123は甕の口縁部で、120を除くすべての外面にススが付着している。124は甕の底部であると思われる。125～127は甕の底部である。128は瓶の底部で上層・下層出土の土器片とも接合しており、外面にススが付着している。129はミニチュア土器で指による調整痕を明瞭に残している。130は高坏の脚部で内面に炭化物が付着している。131は小型の鉢である。132～134は小片のため器種は不明である。132には貼付突帯がめぐる。133は底部に編布痕がみられる。135・136は石器で研磨痕が確認できる。

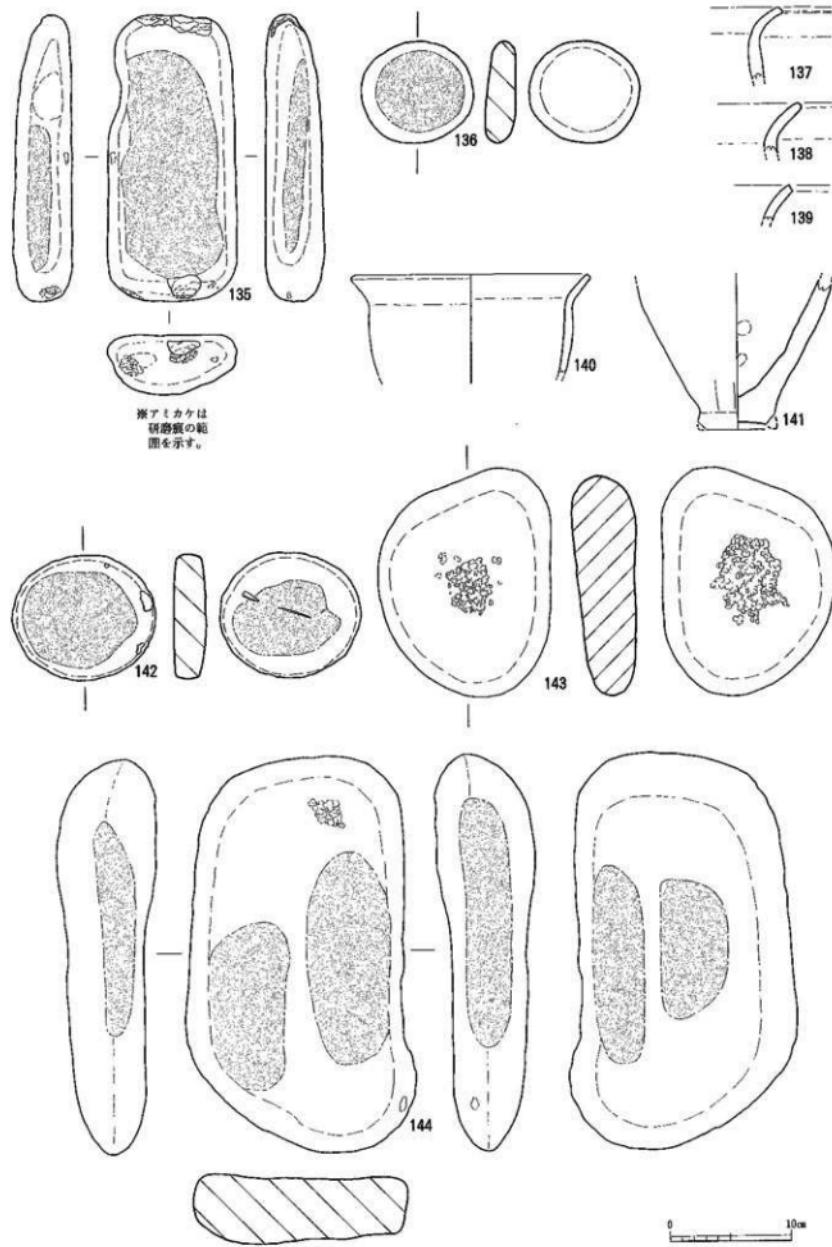
137～144は埋土の下層・最下層から出土した遺物である。137～141は甕で138と141は外面にススが付着している。142～144は石器で研磨痕・敲打痕が確認できる。142はピットの埋土中より、143・144は貼床の直上から出土している。



第14図 SA 0 2 出土遺物実測図 (1)



第15図 S A 0 2 出土遺物実測図 (2)

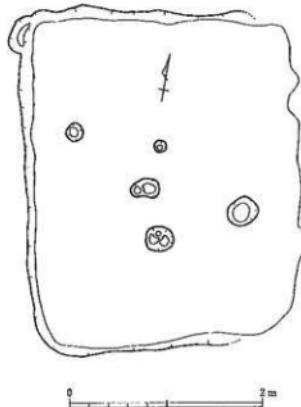
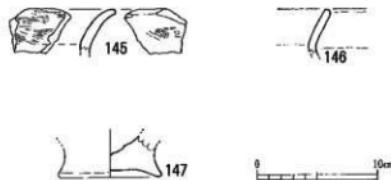


第16図 S A 0 2 出土遺物実測図 (3)

S A 0 3

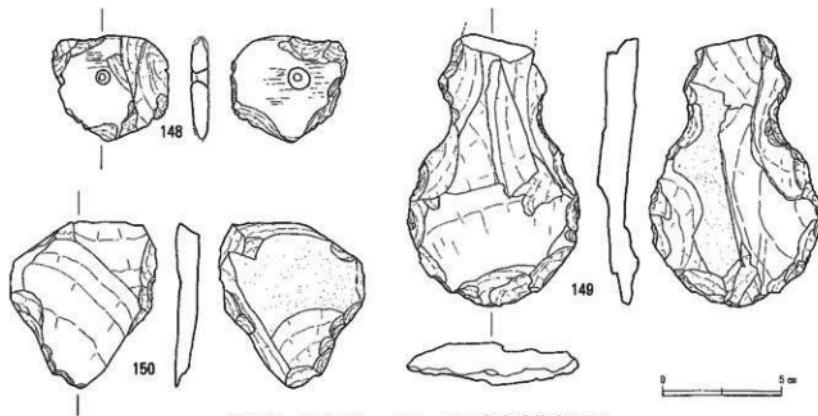
S A 0 2 の下から検出した竪穴住居跡で、長軸3.2m、短軸2.8mの長方形プランである。明確な柱穴は検出できなかった。他の竪穴住居跡と比べて、埋土中からの遺物の出土数は少ない。145～147はいずれも小片のため器種は不明である。

出土した炭化材の年代測定の結果は、埋土中層出土はB C350～300・BC220～50、埋土下層出土はBC30～AD70となっている。



第17図 S A 0 3 及び S A 0 3 出土遺物実測図

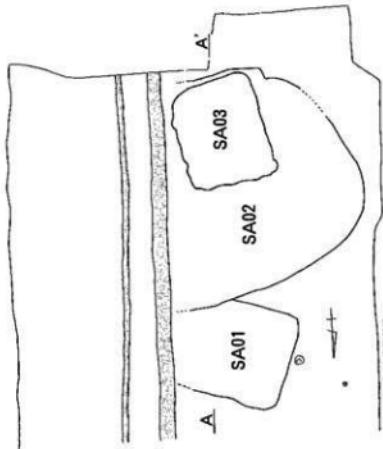
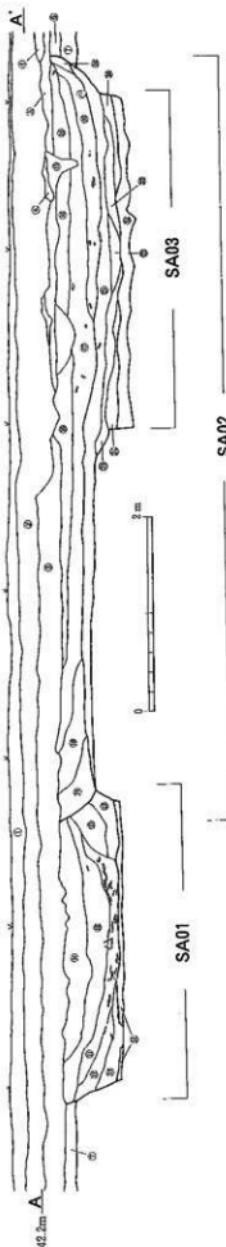
148はS A 0 1 の埋土中層より出土した頁岩製の石包丁の一部で、穿孔があり表面には擦痕が確認できる。149はS A 0 2 の埋土上層より出土した石斧で石材はホルンフェルスと思われる。150はS A 0 3 の埋土中層より出土した石器で用途は不明である。石材は149と同じホルンフェルスと思われる。



第18図 S A 0 1・0 2・0 3 出土遺物実測図

S A 0 1・0 2・0 3 の前後関係について

断面（第19図参照）で確認すると、S A 0 1・0 3 がS A 0 2 に先行して存在していたことがわかる。また、炭化材の年代測定の結果では、S A 0 1 出土より S A 0 3 出土が古い年代を示すことから、古い順から S A 0 3 → S A 0 1 → S A 0 2 となると考えられる。また S A 0 2 出土遺物が S A 0 1 出土遺物と接合することから、S A 0 1 が土器等の廃棄場として使われた時期と S A 0 2 で生活が営まれた時期はほぼ同じではないかと推測できる。



第19図 SA01・02・03土層断面図

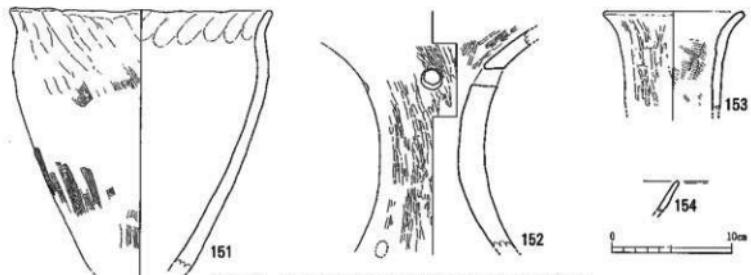
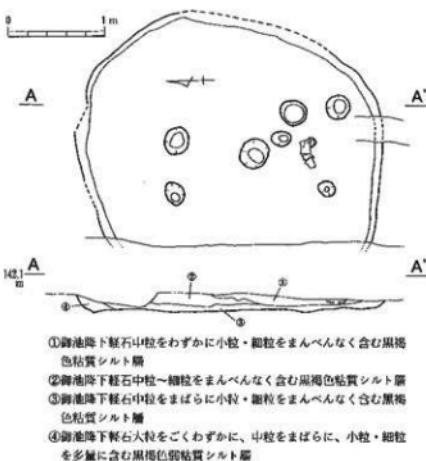
～SA03の床面
シルト層（硬化）～含む黒色弱粘質シルト層
～含む黒色弱粘質シルト層

アミカケ出水過濾後液に
する懸濁を示す。

S A 0 4

調査区グリッドB 6で検出した竪穴住居跡である。SD 0 5、SD 0 6に切られた上に、2本の水道管による破壊も受けているため全容は不明であるが、直径約3mの円形プランであると思われる。床面は硬くしまり、3~4cmの貼床が確認できる。

151は甌の口縁部から胴部で、口縁部外面に指頭痕が確認できる。152と153は重なりあうようにして検出した。152は器台で透かしは上部4ヶ所、下部4ヶ所でほぼ十字を切るように穿たれている。153は長頸甌の口縁部である。154は小片のため器種は不明である。

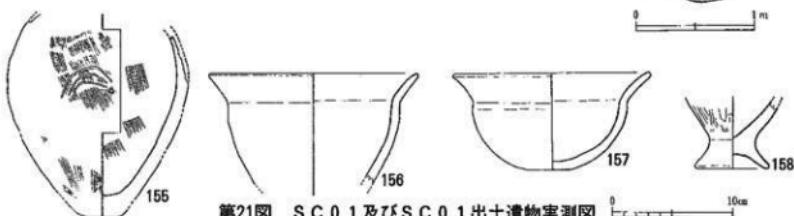
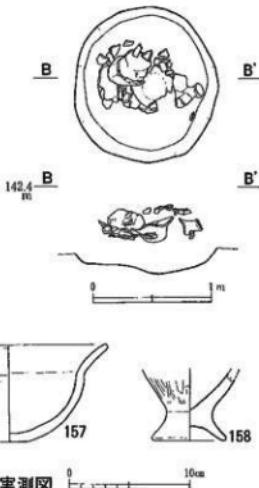


第20図 S A 0 4 及び S A 0 4 出土遺物実測図

S C 0 1

調査区グリッドA 5で検出した土坑で、検出面では直径約1.2mの円形プランである。埋土巾より数点の土器がほぼ形を留めた状態で出土している。

155は壺で内外面ともハケメによる調整がなされ、外面には線刻が施されている。156は甌の口縁部から胴部で、外面の中央と内面の一部にススが付着している。157は浅鉢でほぼ完形を留めていた。158は甌の底部と思われる。



第21図 S C 0 1 及び S C 0 1 出土遺物実測図

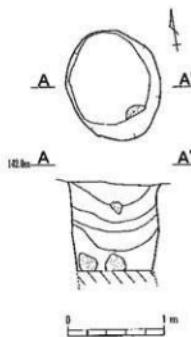
S C 0 2

調査区グリッドB 4で検出した土坑である。平面プランは遺構検出面では長軸1.2m、短軸1mの楕円形である。遺構検出面から約50~60cmの深さの壁面の御池降下軽石は赤色化しており、その下の壁面は白色化している。その下、検出面から約1mから湧水が見られる。さらに掘り下げると、御池降下軽石層下の暗灰色粘質土層まで掘り込まれていた。湧水下の南側の壁面は、抉られるように掘り込まれ、粗く面取りされた軽石製品（第24図、163）が埋め込まれるように据えられていた。それを取り除くと水が勢いよく拭きだしてきた。これらのことから、この遺構は井戸の跡ではないかと思われる。埋土中からは弥生期のものと思われる土器も出土しているが、埋土に文明降下軽石（15C後半に噴出）と思われる降下軽石粒も確認できることから、中世から近世にかけての時期のものであると考えられる。

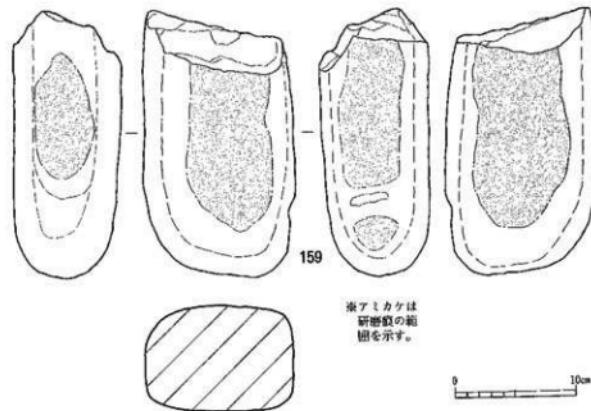
159は磁石で各面に研磨痕が確認できる。160は軽石製品で、粗い研磨により面取りされている。161も軽石製品で粗い研磨により棒状に面取りされている。162は弥生土器と思われるが、小片のため器種は不明である。外面に指頭痕が確認できる。

164は粗い研磨により面取りされた軽石製品で、中央部が抉られ舟の舳先のような形状である。その抉られた部分が熱を加えられ黒変している。165も元々は164と同じような形状であったと思われるが、下半分が平らに削られ、そこに十字を描くように4つの溝みが穿たれている。

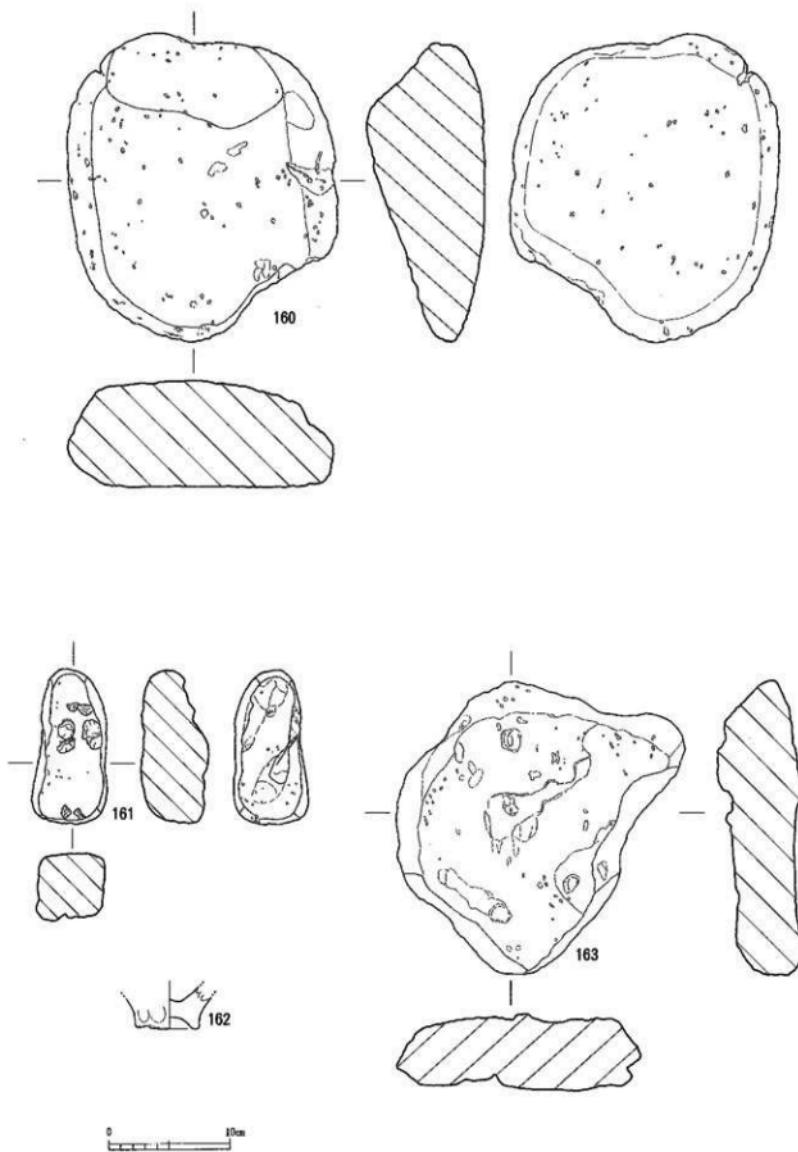
166は石臼の下臼の部分で、臼の目は磨耗しているが、中心に向かう主溝の間隔から九州では一般的な六分画のものであると思われる。



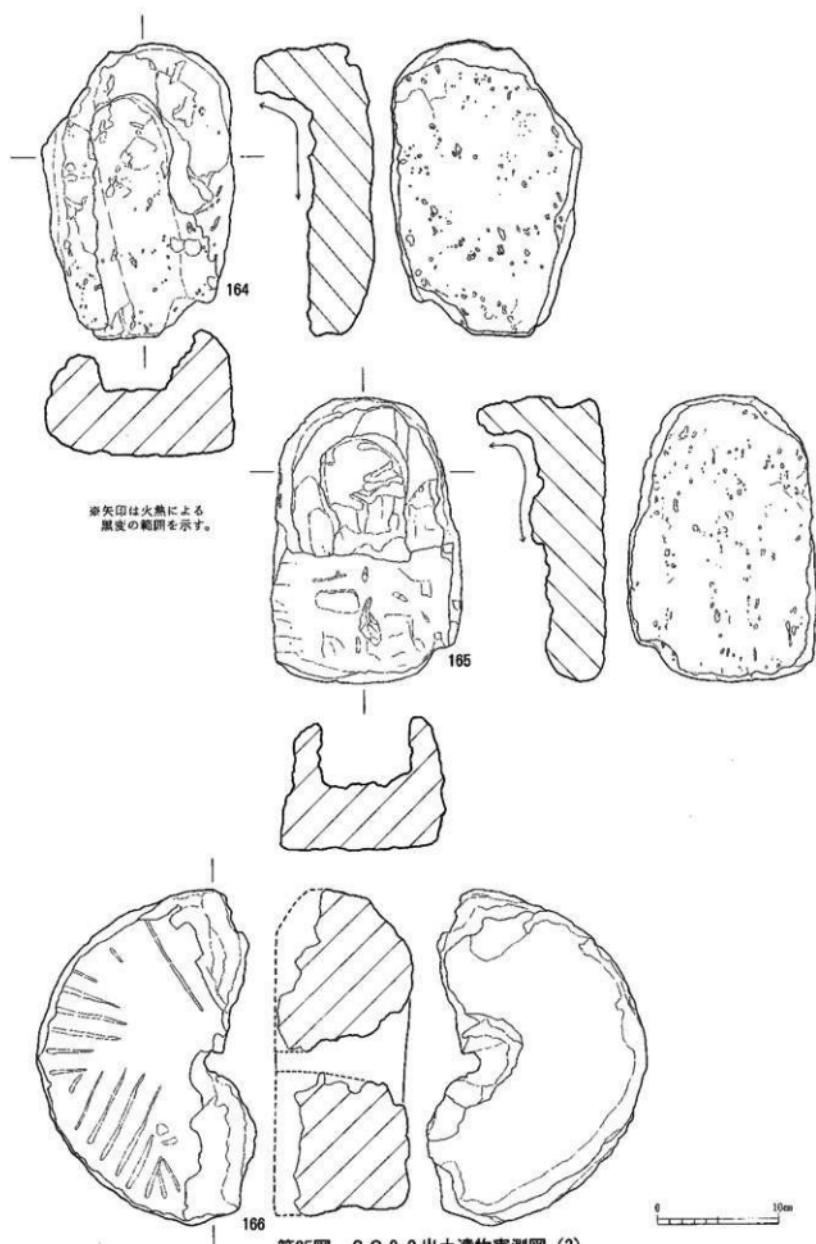
第22図 S C 0 2 実測図



第23図 S C 0 2 出土遺物実測図 (1)



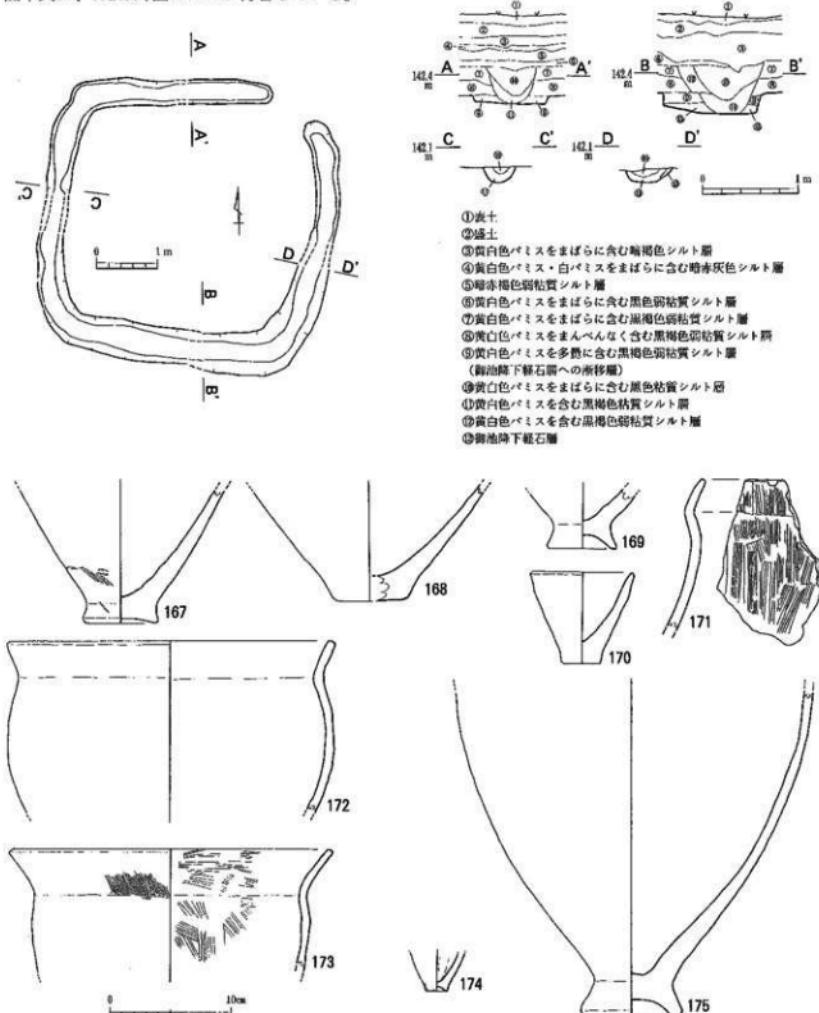
第24図 SC 02 出土遺物実測図 (2)



第25図 SC 02 出土遺物実測図 (3)

STO 1

A区とB区にまたがって、グリッドA 4から検出した周溝状遺構である。遺構検出面では、北東部で溝が切れているが、A区側の遺物の出土状況等から黒色土中から掘り込まれていることが確認でき、本来は全周する隅丸方形プランになると思われる。遺物の出土はA区側に多いが、これはB区側では黒色土層の大半が現道敷設の際に削平を受けている為と考えられる。167～169、175は甕の底部である。170・174はミニチュアの土器で甕を模したものであろうか。171～173は甕の口縁部から胴部で、171は外面上部と内面中央に、172は外面にススが付着している。



第26図 STO 1 及び STO 1 出土遺物実測図

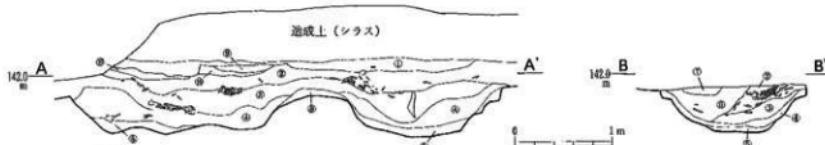
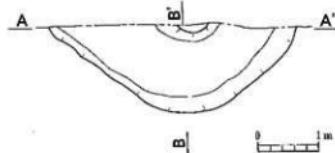
S T O 2

B区の東端、グリッドB 5～B 6にかけて検出した周溝状遺構である。当初は住居跡と思われたが、掘り下げるにつれ中央部が盛り上がっていることが確認され、周溝状遺構の屈曲部であると判明した。口縁部以外ほぼ完全な形を留めていた大型の壺（第29図、200）など非常に多くの土器片が埋土中より出土した。床面には貼床状にやや硬化した御池降下鉢石層が確認できる。埋土下層から出土した炭化材の年代測定ではBC110～BC30頃との結果を得た。

176～205は埋土の上層から出土した遺物である。176は台付甕で外面の口縁部から胴部にかけてススが付着している。177は甕で口縁部から底部まで接合復元できた。内面の下部と外面の中央にススが付着している。178・180～188は甕の口縁部から胴部である。187を除くすべての外面にススが付着している。179は甕で同一固体と思われる底部と図上で合成復元した。外面胴部に右方向に粘土を足しながら連続して押えたような痕跡がある。外面中央にススが付着している。189・190は甕の底部で189は内面の大部分が剥落している。191はミニチュア土器で外面に指頭痕があり、底部は平底に近い形状だがややいびつである。192は浅鉢の口縁部と思われ、内外面下部に僅かにススが付着している。193は鉢で外面にススが付着している。194～198は壺の口縁部である。196は頸部に貼付突帯がめぐり、197は櫛描波状文が施されている。199は壺の底部でSA01、SA02上層出土の破片とも接合している。200は大型の壺で、外面の胴部付近はナデで底部付近はハケメによる調整がなされている。201・202は粗く面取りされた輕石製品である。203～205は小片のため器種は不明である。203の内面にはススの付着がある。

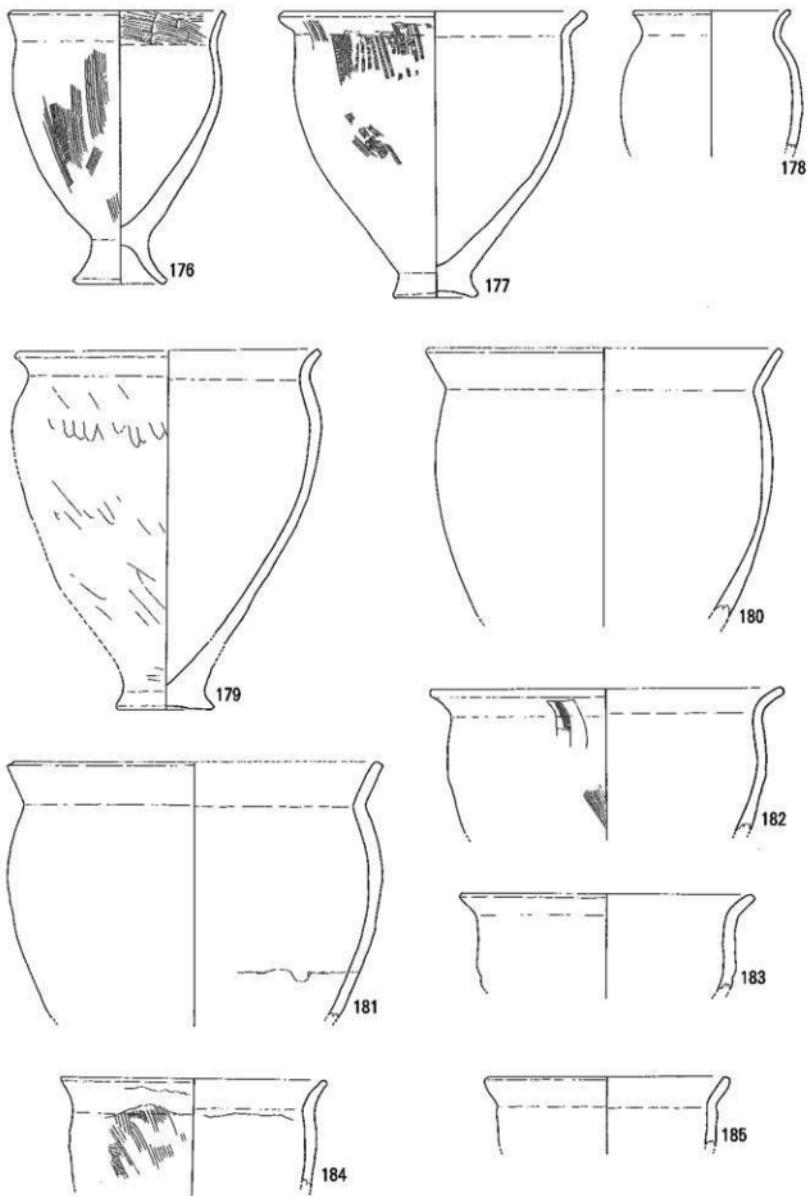
206～216は埋土の中層から出土した遺物である。206は甕の口縁部で下部に接合痕がある。207～209も甕の口縁部で外面にススが付着している。210・211は小片のため器種は不明である。212は坏部の直径が50cmを越える大きな高坏である。脚部の透かしは上部5、下部5が等間隔に並ぶ。坏部と脚部の接合痕が明瞭である。213は高坏の坏部である。214・215は壺の口縁部で215は櫛描波状文が施された後、ミガキによる調整がなされている。216は長頸壺の口縁部である。

217～219は埋土の下層から出土した遺物である。217は小型の壺で内面に指頭痕、工具痕が確認できる。218は高坏の坏部で内外面ともミガキによる調整がされている。219は台付鉢の胴部から底部である。内面はミガキにより仕上げられ、黒変している。

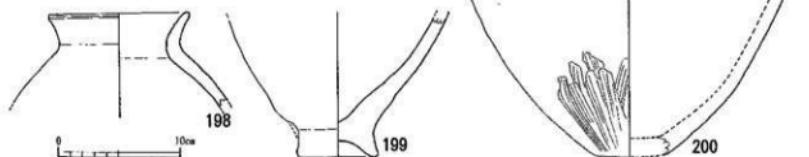
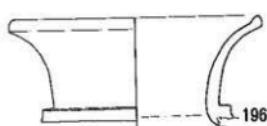
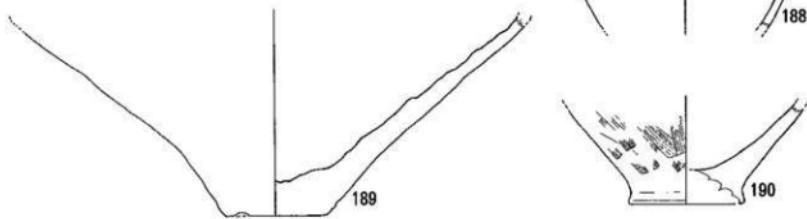


- ①盛土
- ②御池降下鉢石層大粒をごくわずかに、中粒・大粒をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層
- ③御池降下鉢石大粒をわずかに中粒をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層
- ④御池降下鉢石中粒を多量に含む黒褐色粘質土層
- ⑤御池降下鉢石(硬化)
- ⑥御池降下鉢石大粒をまばらに小粒・小粒を多量に含む黒褐色粘質シルト層
- ⑦御池降下鉢石(軟)をまばらに小粒を多量に含む黒褐色粘質シルト層
- ⑧御池降下鉢石を多量に含む黒褐色粘質シルト層(御池降下鉢石層への漸移層)
- ⑨白バミスの中粒・小粒をまんべんなく、黄色バミスの中粒をまばらに含む黒褐色粘質シルト層
- ⑩白バミスの小粒をまばらに黄白色バミスの中粒まばらに小粒をまんべんなく含む黒褐色粘質シルト層

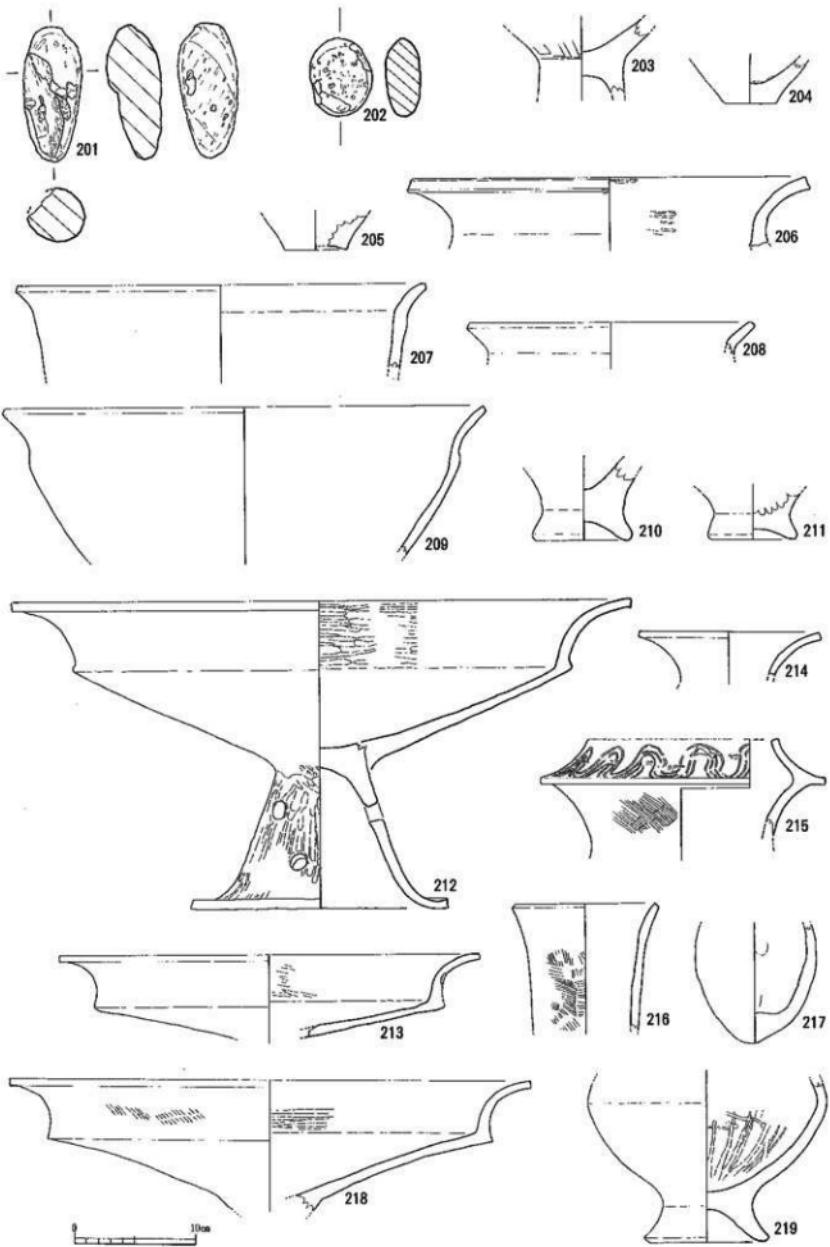
第27図 S T O 2 実測図



第28図 S T 0 2 出土遺物実測図 (1)



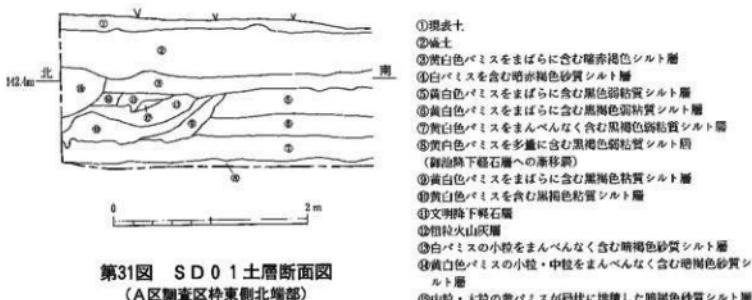
第29図 ST 02 出土遺物実測図 (2)



第30図 S T 0 2 出土遺物実測図 (3)

SD 01

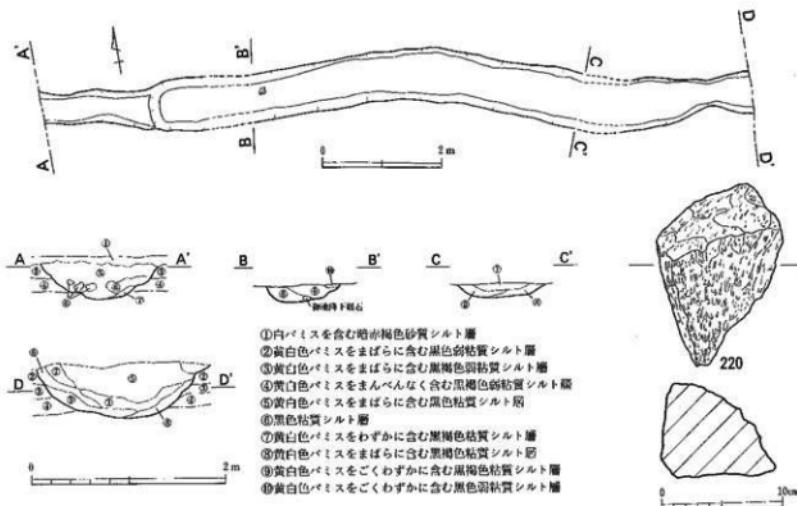
A区の北側と東側の調査区枠の断面でのみ確認できた、ほぼ東西方向に走行する溝状遺構である。溝幅約1mで埋土に文明降下輕石の堆積がみられることから、中世頃のものと思われる。第31図はA区東側調査区枠北端部の断面図である。



SD 02

グリッドA 3からB 3、A区とB区にかけて検出した東西方向に走行する溝状遺構である。溝幅約55cm～85cm、検山面からの深さは約15cmで溝の断面形は立ち上がりの傾斜の緩やかなU字状である。埋土の状況から、SD 02は黄白色バミスを少量含む黒褐色土（第32図、⑦～⑨）を埋土としてほぼ埋没した後、その上に西側に延長された溝状遺構が形成され、それがやがて、黒色土（第32図、⑤⑥）によって埋没していったと考えられる。

埋土中からは弥生土器の小片が出土したが、図化に堪えうるものは無かった。そのほかに粗い研磨で面取りされた輕石製品が数点出土している。220はそれらの1つである。



第32図 SD 02 及び SD 02 出土遺物実測図

SD 0 3

グリッドA 6で検出した小規模な溝状遺構である。溝幅約30cm、検出面からの深さ約10cmで、溝の断面形はU字状である。埋土中からの遺物の出土は無かった。

SD 0 4

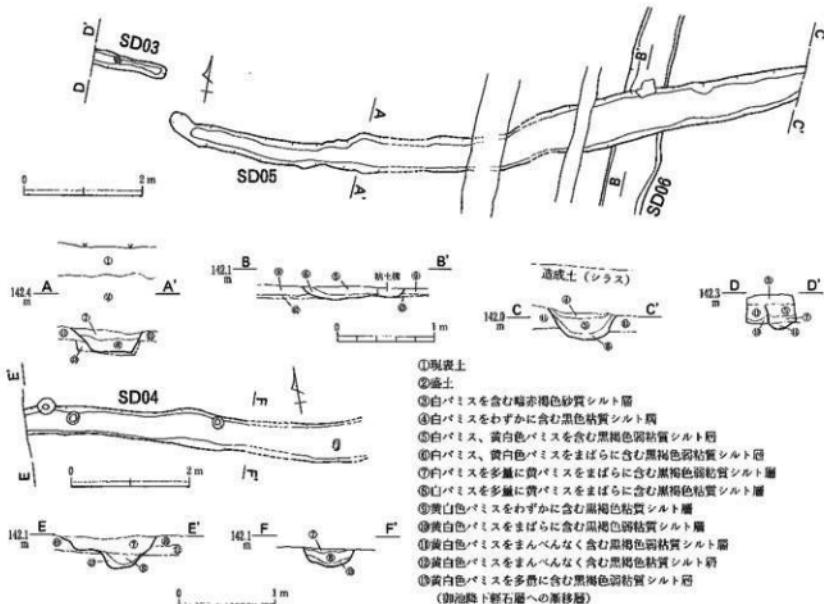
グリッドA 7で検出した溝状遺構である。他の溝状遺構にくらべて掘り込みが浅く、遺構検出面とした御池下軽石への漸移層にはほとんど掘り込まれていなかった。B区側ではほとんど確認できなかったがこれは、B区の南側では道路敷設による削平が御池下軽石層まで及んでいるためである。

SD 0 5

グリッドA 6からB 6、A区からB区にかけて検出した東西方向に走行する溝状遺構である。SA 0 4、SD 0 6を切り、水道管敷設によって2ヶ所切られていた。溝幅約80cm、検出面からの深さ15cmで、溝の断面形は台形状である。埋土中から弥生土器小片が数点出土したが、図化に堪えうるものは無かった。

SD 0 6

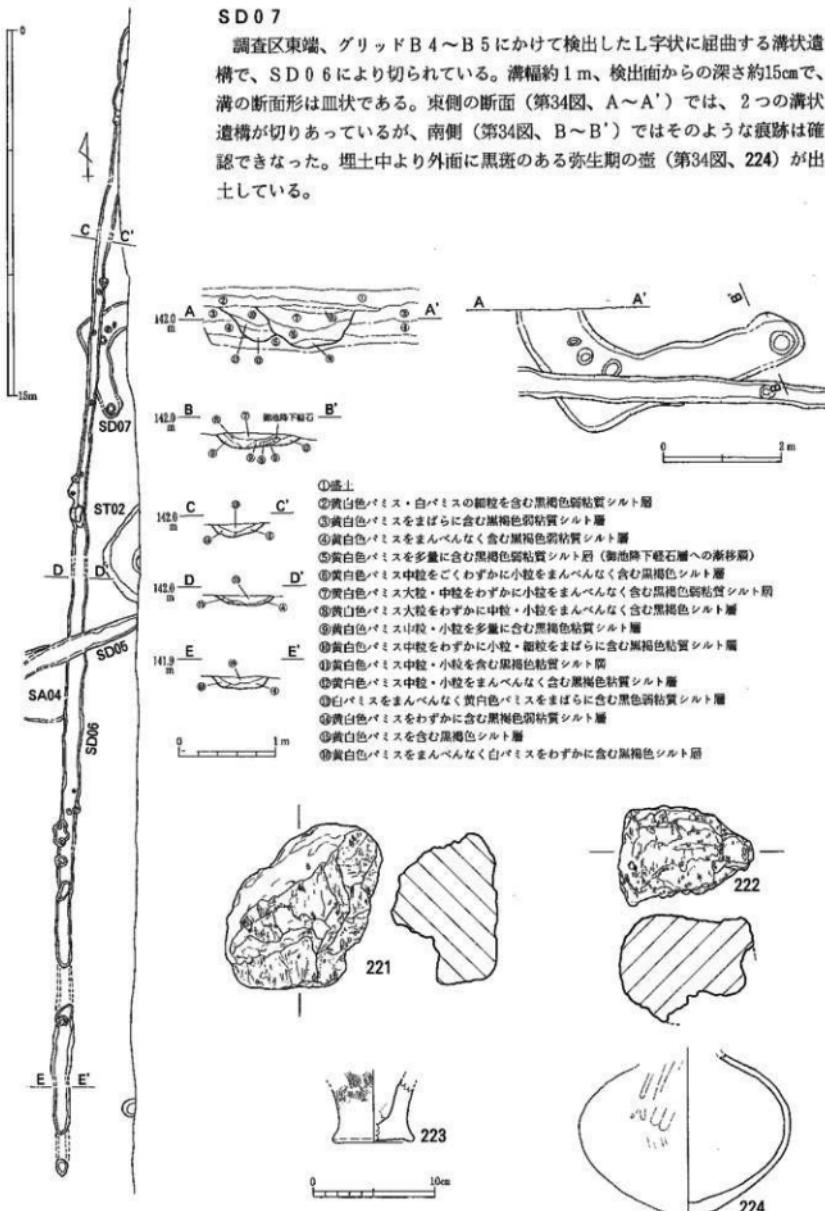
グリッドB 4からB 8にかけて検出した、南北方向に走行する溝状遺構である。SD 0 7、SA 0 4を切り、SD 0 5に切られている。グリッドB 8で途切れているが、これは前述のとおりB区南側がすでに削平をうけていたためで、南側にさらに続いているようである。確認できる範囲でも長さ47mに及ぶ大規模なものである。埋土中から軽石製品数点（第34図、221・222）が出土したほか、弥生土器片も少数出土したが、図化に堪えうるものは1点（第34図、223）のみであった。



第33図 SD 0 3・0 4・0 5 実測図

SD07

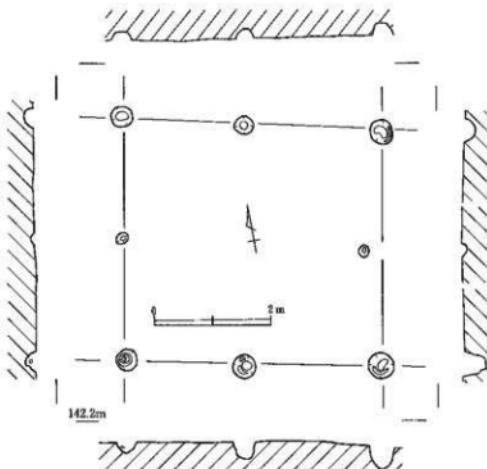
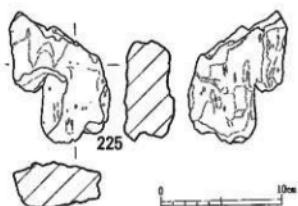
調査区東端、グリッドB4～B5にかけて検出したL字状に屈曲する溝状構で、SD06により切られている。溝幅約1m、検出面からの深さ約15cmで、溝の断面形は皿状である。東側の断面（第34図、A～A'）では、2つの溝状造構が切りあっているが、南側（第34図、B～B'）ではそのような痕跡は確認できなかった。埋土中より外面に黒斑のある弥生期の壺（第34図、224）が出土している。



第34図 SD06・07及びSD06・07出土遺物実測図

S B 0 1

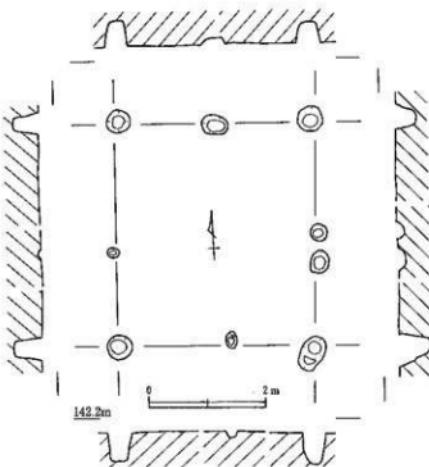
グリッド A 2 で検出した掘立柱建物跡である。確認できる範囲では桁行 2 間（約 5.3m）、梁間 2 間（約 5 m）の東西棟の建物と思われるが、西側は調査区外に広がる可能性がある。直径 25 cm 前後の柱穴によって構成される。南西隅の柱穴から、板状に面取りされた軽石製品の一部を検出した（第35図、225）が、それ以外に共伴する遺物の出土は無く、時期は不明である。



第35図 S B 0 1 及び S B 0 1 出土遺物実測図

S B 0 2

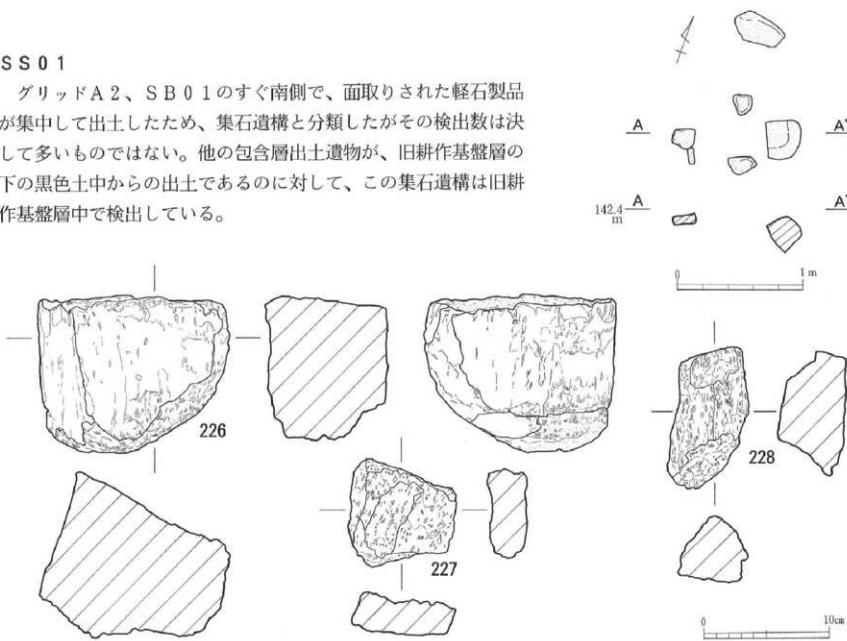
グリッド A 5 で検出した掘立柱建物跡である。確認できる範囲では桁行 2 間（約 3.2m）、梁間 2 間（約 3.8m）の東西棟の建物と思われるが、S B 0 1 同様西側が調査区外に広がる可能性がある。構成する柱穴の大きさには直径 20cm～44cm とばらつきがある。共伴する遺物の出土は無く、時期は不明である。



第36図 S B 0 2 実測図

SS 01

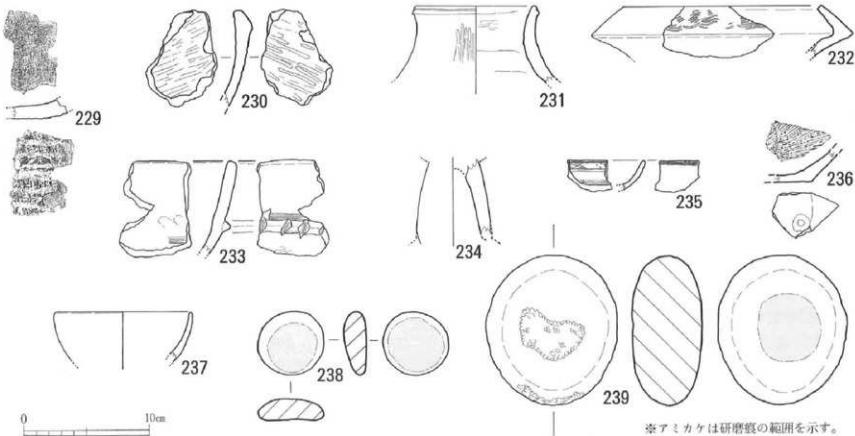
グリッド A 2、SB 01 のすぐ南側で、面取りされた軽石製品が集中して出土したため、集石遺構と分類したがその検出数は決して多いものではない。他の包含層出土遺物が、旧耕作基盤層の下の黒色土中からの出土であるのに対して、この集石遺構は旧耕作基盤層中で検出している。



第37図 SS 01 及び SS 01 出土遺物実測図

包含層出土遺物について

遺構外から出土した遺物も大部分は弥生期に属するものであるが、縄文晩期の土器片（229・230）や古墳時代の土師器（233・234）、中世の舶載陶磁器（235）、近世の国産陶磁器（236・237）なども少数ではあるが出土している。



第38図 包含層出土遺物実測図

*アミカケは研磨底の範囲を示す。

第4章 おわりに

当調査で検出した遺構の年代は、その出土遺物から大まかには、4基の竪穴住居跡と2期の周溝状遺構、SC01、溝状遺構のうちSD02・05・06・07は弥生時代後期、SD01は文明降下軽石の堆積から中世、掘立柱建物跡はピットの埋土からSB01はSD01より新しく、SB02はSD01より古い時期のものであると考えられる。SS01はSB01と同時期かそれよりも新しく、SD04とSC02については時期不明である。

遺物のうちそのほとんどは、その特徴から、弥生時代後期から終末期にかけてものであると考えられる。しかし、同一遺構内から出土した炭化物の年代測定結果は、やや幅があるもののほとんどが紀元前1世紀から紀元後1世紀の値を示している（P44炭化物年代測定一覧表参照）。今回測定した炭化物はすべて、土器等に付着していたものではないことを差し引いても疑問の残る結果である。また瓶ではないかと思われる土器片もSA01（第8図、40）とSA02（第15図、128）で確認されている。このうち40については小片であり器種誤認の可能性も高いが、128は瓶である可能性が高い。ただしSA02中層出土の炭化材は年代測定の結果AD130～260・AD290～320の値を示しており、128が埋土下層出土の破片と接合しているとはいえ、後世の遺物の流れ込みである可能性も考慮できる。また今房遺跡の第1次調査では、当調査区の隣接地で古墳時代初頭の集落跡も確認されていることもあわせて考えなくてはならない。

これらについては、今後、土器そのものに付着している炭化物の測定や近隣の他の遺跡との比較など、より多くのデータの収集とその分析によって検討していかなくてはならない。

最後に調査及び報告書の作成にあたり、ご指導・ご教示して頂いた、矢部喜多夫・桑畠光博・下田代清海・横山哲英・米澤英昭・栗山葉子・立神勇志各氏に心からの感謝の意を表します。

<参考文献>

- 大川清 他 編『日本土器事典』 雄山閣 1996年
武末純一 石川日出志 編『考古資料大観 第1巻 弥生・古墳時代 土器I』 小学館 2003年
三輪茂雄『ものと人間の文化史 25 白』 法政大学出版局 1978年
石川悦雄『弥生時代後半期から古墳時代の土器編年について—予察I高坏』『宮崎県総合博物館研究紀要15』 宮崎県総合博物館 1989年
松永幸寿『宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年』『宮崎考古9』宮崎考古学会 2001年
宮崎県教育委員会『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書 第4集』 1988年
鹿児島県埋蔵文化財センター『鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書(54)中原遺跡』2003年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第24集 並木添遺跡』1993年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第34集 丸谷地区遺跡群』1996年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第35集 加治原遺跡2』1996年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第50集 横市地区遺跡群』2000年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第57集 白山原遺跡』2002年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第58集 横市地区遺跡群』2003年
宮崎県都城市教育委員会『都城市文化財調査報告書第60集 横市地区遺跡群』2003年

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
1	SA01	弥生	把手付碗	ほぼ完形	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	黒斑有り。内外面に指頭痕有り。
2	SA01	弥生	鉢	口縁部～胴部	上層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
3	SA01	弥生	高环	脚部	上層	3mm以下の鉱物を含む		ハケメ?	内外面とも磨耗している。ST02上層出土の破片と接合。
4	SA01	弥生	高环	脚部	上層	1mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	SA01上層出土の破片と接合。造かしは4つか? (反転復元)
5	SA01	弥生	器台	胴部～底部	上層	3mm以下の鉱物を含む	工具ナデ	ミガキ	内面に工具痕有り。ほぼ半分が保存しており、その状態で確認できる造かしは、上部3、下部2。
6	SA01	弥生	甕	ほぼ完形	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	底端から脚部にかけてスス付着。ややあげ底気味。底端剥落。口縁部に指頭痕有り。
7	SA01	弥生	甕	ほぼ完形	上層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	口縁横ナデ 胴部ハケメ	(一部反転復元)
8	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	6mm以下の鉱物を含む	口縁部横ナデ 胴部ナデ	口縁部横ナデ 胴部ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
9	SA01	弥生	甕	口縁部	上層	2mm以下の鉱物を含む	横ナデ	横ナデ	(反転復元)
10	SA01	弥生	甕	口縁部	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。貼付跡は突帯がめぐる。密着に布段らしき痕跡有り。突帯一部剥落。
11	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。
12	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	2mm以下の鉱物を含む	口縁部ハケメ 胴部ナデ	ハケメ	外面にスス付着。(反転復元)
13	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	胎土に5mm程の鉱物を多量に含む。(反転復元)
14	SA01	弥生	甕	口縁部	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
15	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4mm以下の鉱物を含む	ハケメ	上部横ナデ 下部縦ハケメ	口縁から胴部にかけてスス付着。(反転復元)
16	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
17	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。胎土に不純物多し。(反転復元)
18	SA01	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	3mm以下の鉱物を含む	横方向の工具ナデ	口縁横ナデ 胴部ハケメ	外面にスス付着。剥落多い。
19	SA01	弥生	甕	胴部～底部	上層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	胴部ハケメ 底部ナデ	外面底部に指頭痕明瞭。(反転復元)
20	SA01	弥生	甕	底部	上層	6mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に指頭痕有り。(反転復元)
21	SA01	弥生	甕?	底部	上層	2mm以下の鉱物を含む	工具ナデ	胴部工具ナデ 底部横ナデ	内面に指頭痕有り。(反転復元)
22	SA01	弥生	甕	底部	上層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	縦ナデ	内面の色調は黄灰。(反転復元)
23	SA01	弥生	甕	底部	上層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	胴部縦ナデ 底部横ナデ	(反転復元)
24	SA01	弥生	甕	底部	上層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に指頭痕有り。(反転復元)
25	SA01	弥生	甕?	底部	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	工具ナデ	内面に爪の跡有り。(反転復元)

出土遺物観察表(1)

通載 番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
26	SA 01	弥生	壺	ほぼ完形	上層	5mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	口縁横ナデ 胸部ハケメ	土に上層から出土の破片のだが中層、 下層出土の破片とも接合。
27	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	上層	4mm以下 の鉱物を 含む	ナデ 一部にハケメ	口縁部ハケメ 胸部ナデ 一部ミガキ	中層・下層の破片とも接合。内部に指 印既存有り。外端磨耗。胎土に不純物を 多く含む。輪様み痕有り。(反転復元)
28	SA 01	弥生	長頸壺	口縁部	上層	2mm以下 の鉱物を 含む	ミガキ	ミガキ	外面に剥落有り。(反転復元)
29	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	上層	1mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ミガキ	口縁～頸部外面に工具痕有り。
30	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～底部	上層	4mm以下 の鉱物を 含む	ハケメ	ハケメ	機方向の線刻有り。(反転復元)
31	SA 01	弥生	壺?	胴部	上層	3mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ハケメ	外面に線刻有り。
32	SA 01	弥生	壺?	胴部	上層	3mm以下 の鉱物を 含む		ナデ	外面に線刻有り。
33	SA 01	弥生	壺	底部	上層	2mm以下 の鉱物を 含む		ナデ	内面全面剥落。(反転復元)
34	SA 01	弥生	壺	底部	上層	精良	工具ナデ	ミガキ	(反転復元)
35	SA 01	軽石 製品			上層				全面を研磨してある。表面に一ヶ所 くぼみ有り。
36	SA 01	弥生	ミニ チュア	完形	中層	7mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面に指痕既存有り。
37	SA 01	弥生	ミニ チュア	ほぼ完形	中層	2mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	黒斑有り。(一部反転復元)
38	SA 01	弥生	ミニ チュア	ほぼ完形	中層	3mm以上 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面に粘土層のような假跡有り。黒 斑有り。(一部反転復元)
39	SA 01	弥生	高环	环部	中層	4mm以下 の鉱物を 含む	ナデ 一部ミガキ	ナデ	LJ環層にスス付着。変容後に付着し たものか？(反転復元)
40	SA 01	弥生	壺?	底部	中層	3mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ミガキ	外面に線刻有り。壺の口縁の可能性 有り。
41	SA 01	弥生	壺	ほぼ完形	中層	4mm以下 の鉱物を 含む	口縁横ナデ 胸部ナデ	口縁横ナデ 胸部ハケメ	口縁から脚部にかけてスス付着。底 部に指痕既存有り。
42	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～底部	中層	4mm以下 の鉱物を 含む	工具ナデ	ハケメ	(反転復元)
43	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	3mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面スス付着。外端磨耗剥落。(反 転復元)
44	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	7mm以下 の鉱物を 含む	口縁部横ナデ 胸部ミガキ	ナデ	内面に工具痕有り。(反転復元)
45	SA 01	弥生	壺	口縁部	中層	7mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。(反転復元)
46	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	4mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
47	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	4mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	口縁部横ナデ 胸部ハケメ	外端スス付着。内面工具痕有り。 (反転復元)
48	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	2mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ハケメ後 ミガキ	外面下部にスス付着。(反転復元)
49	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	7mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	口縁部横ナデ 胸部ハケメ	外面にスス付着。(反転復元)
50	SA 01	弥生	壺	口縁部 ～胴部	中層	3mm以下 の鉱物を 含む	工具ナデ	口縁部横ナデ 胸部ハケメ後 ナデ	外面に黒斑有り。

出土遺物観察表（2）

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
51	SA 01	弥生	甕?	底部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面に指痕有り。(反転復元)
52	SA 01	弥生	甕	底部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に指痕有り。(反転復元)
53	SA 01	弥生	甕	底部	中層	2 mm以下の鉱物を含む	ナデ	下から上へのハケメ 底部ナデ	(反転復元)
54	SA 01	弥生	甕	底部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ハケメ	工具ナデ	外面胸部中央にスス付着。
55	SA 01	弥生	甕	底部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外曲にスス付着。(反転復元)
56	SA 01	弥生	甕	底部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	胸部ハケメ 底部ナデ	(反転復元)
57	SA 01	弥生	甕?	底部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	底部墨状に剥離している。胎土に不純物を多く含む。(反転復元)
58	SA 01	弥生	高杯	脚部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	外面大部分擦耗。内部に工具痕有り。(反転復元)
59	SA 01	弥生	長頸甕	口縁部	中層	精良	工具ナデ 一部ハケメ	ミガキ	上肩山土の破片と接合。
60	SA 01	弥生	甕	脚部~底部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ハケメ	ハケメ	下肩山土の遺物と接合。(反転復元)
61	SA 01	弥生	甕	口縁部~脚部	中層	5 mm以下の鉱物を含む	ナデ	口縁部ナデ 脚部ハケメ ミガキ	(反転復元)
62	SA 01	弥生	甕	口縁部~胴部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ後ミガキ	(反転復元)
63	SA 01	弥生	甕	口縁部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ ミガキ?	ナデ ミガキ?	(反転復元)
64	SA 01	弥生	甕	口縁部~胴部	中層	5 mm以下の鉱物を含む	ナデ	口縁部ナデ 胴部ミガキ	(一部反転復元)
65	SA 01	弥生	長頸甕	ほぼ完形	中層	8 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	主に中層から出土の破片のだが上肩、下肩山土の破片とも接合。
66	SA 01	弥生	甕	脚部~底部	中層	5 mm以下の鉱物を含む		ナデ	内面擦耗。外面に線刻有り。(反転復元)
67	SA 01	弥生	甕	脚部~底部	中層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	内面の大半分が剥離。外面底部に黒斑有り。(反転復元)
68	SA 01	弥生	甕?	底部	中層	2 mm以下の鉱物を含む	工具ナデ ハケメ		(反転復元)
69	SA 01	弥生	鉢	底部	中層	5 mm以下の鉱物を含む		ケズリ後 ナデ	底部のつくりが粗く安定性に欠けている。内面の大部分が剥離している。黒斑有り。色調は赤褐色。
70	SA 01	弥生		底部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面平底。墨模不明。(反転復元)
71	SA 01	弥生		底部	中層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	墨模不明。(反転復元)
72	SA 01	弥生	甕	口縁部	下層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。
73	SA 01	弥生	甕	口縁部~底部	下層	3 mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ミガキ	小型。墨模有り。(反転復元)
74	SA 01	弥生	甕	口縁部~胴部	下層	3 mm以下の鉱物を含む	ナデ ハケメ		外面にスス付着。(反転復元)
75	SA 01	弥生	甕	口縁部~胴部	下層	4 mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に工具痕多数有り。外面スス付着。(反転復元)

出土遺物観察表(3)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
76	SA 01	弥生	壺	口縁部～底部	下層	1mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ミガキ	SA 02 上層土中の破片と接合。(反転復元)
77	SA 01	弥生	壺	口縁部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	(反転復元)
78	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	下層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	口縁横工具ナデ 胴部ナデ	(反転復元)
79	SA 01	弥生	壺	口縁部	下層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。墨斑有り。(反転復元)
80	SA 01	弥生	壺	口縁部～底部	下層	4mm以下の鉱物を含む	ハケメ	ハケメ	外面にスス付着。内面下部擦剥跡。
81	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	下層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	工具ナデ	(反転復元)
82	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
83	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	工具ナデ	外面にスス付着。内面に指痕痕有り。(反転復元)
84	SA 01	弥生	壺	口縁部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。内面に工具痕有り。(反転復元)
85	SA 01	弥生	壺	底部	下層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	工具ナデ	外面上部にスス付着。工具痕有り。(反転復元)
86	SA 01	弥生	壺？	底部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ハケメ	ミガキ	上層出土の破片と接合。器種不明(反転復元)
87	SA 01	石器	石皿		下層				表面に敲打痕有り。安山岩。
88	SA 01	弥生	鉢	口縁部～胴部	下層	5mm以下の鉱物を含む	横ナデ	横ナデ	外面にスス付着。外面下部剥落。(反転復元)
89	SA 01	弥生	壺	口縁部	下層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	上部ナデ 下部ミガキ	二重口縁。横擦波状紋。(反転復元)
90	SA 01	弥生	壺	底部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	中胴土中の破片と接合。底部黒変している。(反転復元)
91	SA 01	弥生	壺	底部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	中胴にも同一團体の破片あるが接合せず。(反転復元)
92	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	下層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	上層、中胴土中の遺物と接合。黒斑有り。内面に指痕、工具痕有り。
93	SA 01	弥生	壺	口縁部～胴部	最下層	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	外面一部剥落。内面に工具痕有り。外面にスス付着。(反転復元)
94	SA 01	弥生	壺	完形	最下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	口縁横ナデ 胴部ハケメ 底部ナデ	胴部中心にスス付着。
95	SA 01	弥生	壺	完形	最下層	3mm以下の鉱物を含む	口縁横ナデ 胴部-底部 割目ハケメ	口縁横ナデ 胴部-底部 割目ハケメ	底部から胴部にかけてスス付着。ややあげ底気味。
96	SA 01	弥生	壺	完形	最下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	上部横ナデ 下部継ハケメ	口縫が縫いている。
97	SA 01	弥生	壺	完形	最下層	5mm以上の鉱物を含む	ナデ	上部ナデ 下部縫工具ナデ	縫剝有り。
98	SA 01	弥生	壺	ほぼ完形	最下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ハケメ ナデ	縫剝有り。口縫部を内側から剥離。
99	SA 02	弥生	壺	口縁部～胴部	上層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	ハケメ ナデ	外面にスス付着。ST 02 上層土中の遺物と接合。(反転復元)
100	SA 02	弥生	壺	口縁部	上層	3mm以下の鉱物を含む	横ナデ 後ミガキ	口縫横ナデ 胴部ハケメ	外面に工具痕有り。外面にスス付着。(反転復元)

出土遺物観察表(4)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
101	S A 0 2	弥生	壺	口縁部～胴部	上層	3 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
102	S A 0 2	弥生	壺	胴部	上層	1 mm以下 の鉱物を含む		ハケメ	刻目突起有り。外面にスス付着。内面は磨耗。
103	S A 0 2	弥生	壺?	底部	上層	1 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に指痕痕有り。
104	S A 0 2	弥生	壺	底部	上層	1 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	小型?
105	S A 0 2	弥生	壺?	底部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	
106	S A 0 2	弥生	壺	底部	上層	3 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	ハケメ	外面磨耗している。(反転復元)
107	S A 0 2	弥生	台付壺	底部	上層	精良	ナデ	ハケメ	黒斑有り。(反転復元)
108	S A 0 2	弥生	壺	胴部～底部	上層	2 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	工具ナデ 部分的にミガキ	S A 0 2 下層出土の破片と接合。S A 0 2 中層出土の遺物と接合。(反転復元)
109	S A 0 2	弥生	壺	底部	上層	3 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	ミガキ	内面に指痕痕有り。
110	S A 0 2	弥生	壺	底部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	ナデ後ミガキ	内面に工具痕有り。(反転復元)
111	S A 0 2	弥生	壺	底部	上層	6 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面に指によると思われる圧痕有り。黒斑有り。
112	S A 0 2	弥生	壺	口縁部	上層	3 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ミガキ	
113	S A 0 2	弥生		底部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	ハケメ	外面に竹青紋有り。器種不明。(反転復元)
114	S A 0 2	石器	敲石		一括				敲打痕有り。砂岩。
115	S A 0 2	石器	砥石		上層				各面に研磨痕有り。
116	S A 0 2	弥生	高坏?	口縁部	一括	2 mm以上 の鉱物を含む	横ナデ	上部横ナデ 下部工具ナデ	(反転復元)
117	S A 0 2	弥生	ミニチュア	ほぼ完形	一括	2 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	形状不明。
118	S A 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	側溝波状紋。接合痕有り。
119	S A 0 2	弥生	壺?	口縁部	中層	3 mm以下 の鉱物を含む	ミガキ	ミガキ	外面にスス付着。(反転復元)
120	S A 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。(反転復元)
121	S A 0 2	弥生	壺	口縁部～胴部	上層	3 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	口縁部横ナデ 胴部ハケメ?	外面にスス付着。内面に工具痕有り。(反転復元)
122	S A 0 2	弥生	壺	口縁部～胴部	中層	2 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
123	S A 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3 mm以下 の鉱物を含む	工具ナデ	口縁部横ナデ 胴部ハケメ	外面にスス付着。(反転復元)
124	S A 0 2	弥生	壺?	底部	中層	5 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	縦工具ナデ	丸底に近い形状。
125	S A 0 2	弥生	壺	底部	中層	1 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ハケメ	

出土遺物観察表 (5)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
126	S A 0 2	弥生	甕	底部	中層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ		外面磨耗剥離。(反転復元)
127	S A 0 2	弥生	甕	底部	中層	1mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面に工具痕(線刻?)有り。(反転復元)
128	S A 0 2	弥生	甕	底部	中層	5mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	上層・下層の破片と接合。外面にスス付着。
129	S A 0 2	弥生	ミニチュア	ほぼ完形	中層	1mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面部剥離明瞭。
130	S A 0 2	弥生	高坏	脚部	中層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	脚部内面に炭化物付着。(反転復元)
131	S A 0 2	弥生	鉢	口縁部～底部	中層	1mm以下の鉱物を含む	ナデ	ハケメ後ミガキ	小型
132	S A 0 2	弥生		胴部	中層	4mm以下の鉱物を含む	横ナデ	横ナデ	貼付穴有り。内面剥落。器種不明。(反転復元)
133	S A 0 2	罐文		底部	中層	補足	丁寧なナデ	織布痕	織布痕有り。器種不明。
134	S A 0 2	弥生		口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む		横ナデ	内面磨耗・剥落のため調整不明。器種不明。(反転復元)
135	S A 0 2	石器	砥石		中層				各面に研磨痕有り。
136	S A 0 2	石器	磨石		中層				砂岩?
137	S A 0 2	弥生	甕	口縁部	下層	1mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面に工具痕有り。
138	S A 0 2	弥生	甕?	口縁部	最下層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。
139	S A 0 2	弥生	甕?	口縁部	最下層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内外面ともに丁寧なナデ。
140	S A 0 2	弥生	甕	口縁部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
141	S A 0 2	弥生	甕?	底部	下層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。内面に指頭痕有り。(反転復元)
142	S A 0 2	石器	磨石						両面に研磨痕有り。側は発掘の際の二次的なものである。柱状断柱穴の底より出土。
143	S A 0 2	石器	石皿		最下層				両面に敲打痕有り。
144	S A 0 2	石器	砥石		最下層				各面に研磨痕有り。
145	S A 0 3	弥生		口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む	ハケメ	横ナデ後ミガキ	外面上にスス付着。器種、傾き不明。
146	S A 0 3	弥生		口縁部	中層	1mm以下の鉱物を含む	横ナデ	横ナデ	器種、傾き不明。
147	S A 0 3	弥生		底部	中層	2mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面に指頭痕有り。器種不明。
148	S A 0 1	石器	石包丁						頁岩。
149	S A 0 2	石器	石斧		上層				ホルンフェルス?
150	S A 0 3	石器							ホルンフェルス?

出土遺物観察表 (6)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
151	S A 0 4	弥生	甕	口縁部～胴部	中層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	口縁部ナデ 胴部ハケメ	口縁部内外面に指頭痕有り。内面下部、外面中央部にスス付着。(X転復元)
152	S A 0 4	弥生	器台	胴部	中層	3 mm以下 の鉱物を含む	上部ミガキ 下部ナデ	ミガキ	透かしは上部4ヶ所、下部4ヶ所でほぼ十字をさるよう穿たれている。
153	S A 0 4	弥生	長頸甕	口縁部	中層	4 mm以下 の鉱物を含む	上部横ナデ 下部ハケメ	ミガキ	外画磨耗している。 (反転復元)
154	S A 0 4			口縁部	中層	2 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	器種不明。
155	S C 0 1	弥生	甕？	胴部～底部		2 mm以下 の鉱物を含む	ハケメ	ハケメ	外面に線刻有り。
156	S C 0 1	弥生	鉢	口縁部～胴部		精良	ナデ	工具ナデ	外面の中央と内面の一部にスス付着。 (X転復元)
157	S C 0 1	弥生	浅鉢	完形		4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	黒斑有り。
158	S C 0 1	弥生	甕？	底部		精良	ナデ	上部ハケメ 下部横ナデ	
159	S C 0 2	石器	砥石						全面に研磨痕有り。
160	S C 0 2	輕石 製品							粗い研磨により面取りされている。 用途不明。
161	S C 0 2	輕石 製品		上層					粗い研磨により面取りされている。 用途不明。
162	S C 0 2	発生？		底部	中層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外側に指頭痕有り。胎土に不純物を多く含む。(反転復元)
163	S C 0 2	輕石 製品			最下層				粗く面取りされている。止水弁？
164	S C 0 2	輕石 製品							粗い研磨により面取りがなされ、中央が抉られ、角の船先のような形状。その部分に熱を加えた形跡あり。用途不明。
165	S C 0 2	輕石 製品							粗い研磨により面取りがなされ、中央が抉られ、角の船先のような形状。その部分に熱を加えた形跡あり。用途不明。
166	S C 0 2	石製品	石臼		下層				下臼。
167	S T 0 1	弥生	甕	底部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ ハケメ	外面に工具痕有り。内面下部に炭化物付着。(X転復元)
168	S T 0 1	弥生	甕？	底部	上層	5 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。(反転復元)
169	S T 0 1	弥生	甕？	底部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	(反転復元)
170	S T 0 1	弥生	ミニ チュア	口縁部～底部	上層	5 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	變形(反転復元)
171	S T 0 1	弥生	甕	口縁部～胴部	中層	精良	ナデ	ハケメ	外面上部と内面中部にスス付着。
172	S T 0 1	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	工具ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
173	S T 0 1	弥生	甕	口縁部～胴部	上層	4 mm以下 の鉱物を含む	ハケメ	縦ハケメ後 横ナデ	(反転復元)
174	S T 0 1	弥生	ミニ チュア	胴部～底部	中層	2 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	内面に指頭痕有り。
175	S T 0 1	弥生	甕	胴部～底部	上層	5 mm以下 の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面前面を中心にスス付着。 (反転復元)

出土遺物観察表(7)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
176	S T 0 2	弥生	台付壺	口縁部～底部	上層	ごく微小 の砂粒 含む	口縁部ハケメ 胸部～底部ナデ	口縁・底部ナデ 胸部ハケメ	口縁部から胸部にスス付着
177	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～底部	上層	5 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ハケメ	内面下部、外面小部に炭化物付着。 胎土に不純物多し。(反転復元)
178	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	* 1	4 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
179	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～底部	上層	5 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	底辺と頂上で復元。外面に工具痕・ 指頭痕有り。外面スス付着。
180	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	上層	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	縦方向の 工具ナデ	外面にスス付着。
181	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	上層	6 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。外面にスス付着。 下部に輪積み痕？有り。(反転復元)
182	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	上層	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ハケメ	外面にスス付着。胎土にやや不純物 多し。
183	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	上層	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。胎土に不純物多し。 内外面とも輪積している。(反転復元)
184	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	* 1	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	口縁部横ナデ 胸部ハケメ	外面にスス付着。輪積み痕有り。(反転復元)
185	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	* 1	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
186	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	* 1	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面にスス付着。外面下部剥落。(反転復元)
187	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	上層	4 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	(反転復元)
188	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	上層	精良	ハケメ	口縁部横ナデ 胸部ハケメ	口縁部ほぼ垂直に立ち上がる。(反転復元)
189	S T 0 2	弥生	壺	底部	上層	4 mm以下の 鉱物を 含む		ナデ	内面磨耗。(反転復元)
190	S T 0 2	弥生	壺？	底部	上層	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ハケメ	(反転復元)
191	S T 0 2	弥生	ミニチュア	底部	上層	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	外面に指頭痕有り。底部は平底に近い形状だがやいびつ。
192	S T 0 2	弥生	浅鉢？	口縁部	上層	3 mm以下の 鉱物を 含む	ミガキ	ミガキ	内外面下部に輕かに炭化物が付着。
193	S T 0 2	弥生	鉢	口縁部～胸部	上層	精良	ナデ	ナデ	外面にスス付着。(反転復元)
194	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	* 1	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	内外面とも指頭痕有り。(反転復元)
195	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	* 1	3 mm以下の 鉱物を 含む	ハケメ？	ハケメ	内面大部分が剥落。(反転復元)
196	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	上層	5 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	縦工具ナデ 突堤部横ナデ	底部に胎内突堤。胎上に不純物多し。(反転復元)
197	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	上層	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	褐色液状文。(反転復元)
198	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胸部	* 1	5 mm以下の 鉱物を 含む	工具ナデ	工具ナデ	(反転復元)
199	S T 0 2	弥生	壺？	底部	上層	3 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	ナデ	S A 0 1 上層、S A 0 2 上層土の 破片とも接合。(反転復元)
200	S T 0 2	弥生	壺	ほぼ完形	* 1	5 mm以下の 鉱物を 含む	ナデ	胸部ナデ 底部ハケメ	大型。

出土遺物観察表(8)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
201	S T 0 2	軽石製品			上層				円錐に近い形状の一部が剥落。
202	S T 0 2	軽石製品			上層				表面に研磨痕有り。
203	S T 0 2	弥生		底部	上層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ハケメ	内面にスス付着。外面磨耗。器種不明。(反転復元)
204	S T 0 2	弥生		底部	上層	5mm以上Fの鉱物を含む	工具ナデ	ナデ	内面に指頭痕有り。器種不明。(反転復元)
205	S T 0 2	弥生		底部	* 1	4mm以下の鉱物を含む		ナデ	器種不明。(反転復元)
206	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ミガキ	内外面とも磨耗している。下部に接合痕有り。(反転復元)
207	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む	口縁部横ナデ 胴部斜めナデ	口縁部横ナデ 胴部縦ナデ	外面上にスス付着。(反転復元)
208	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	外面上にスス付着。(反転復元)
209	S T 0 2	弥生	壺	口縁部～胴部	* 2	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	胎土に不純物多し。外面上にスス付着。(反転復元)
210	S T 0 2	弥生		底部	中層	2mm以下の鉱物を含む		ナデ	器種不明。
211	S T 0 2	弥生		底部	* 2	4mm以下の鉱物を含む		ナデ	内面剥離。器種不明。(反転復元)
212	S T 0 2	弥生	高壺	ほぼ完形	中層	3mm以下の鉱物を含む	環底上ミガキ 环部下端ナデ 脚部ナデ	環底上ミガキ 环部下端ナデ 脚部ミガキ	透かしは上部5、下部5がそれぞれ等間隔にある。环部と脚部の接合痕が明瞭。大崩。
213	S T 0 2	弥生	高壺	壺部	中層	1mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ナデ	外面上とも磨耗している。内面は伝統的にわたり変遷している。(反転復元)
214	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	中層	3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ	
215	S T 0 2	弥生	壺	口縁部	* 3	4mm以下の鉱物を含む	ナデ	構ナデ後ミガキ	構造波状紋。* 1層、* 6層出土の破片と接合。
216	S T 0 2	弥生	長頸壺	口縁部	中層	4mm以下の鉱物を含む	上部横ナデ 下部縦ナデ	上部横ナデ 下部ハケメ	(反転復元)
217	S T 0 2	弥生	ミニチュア	ほぼ完形	下層	3mm以下の鉱物を含む	工具ナデ	ナデ	内面に指頭痕・工具痕有り。彫刻？(反転復元)
218	S T 0 2	弥生	高壺	壺部	* 3	4mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ミガキ	外面上とも磨耗している。
219	S T 0 2	弥生	台付鉢	底鉢	* 3	3mm以下の鉱物を含む	ミガキ	ナデ	内面黒度。
220	S D 0 2	軽石製品							粗い研磨により面取りされている。
221	S D 0 6	軽石製品							粗い研磨により面取りされている。
222	S D 0 6	軽石製品							粗く面取りしている。円柱に近い形状のものと思われる。
223	S D 0 6	弥生	壺？	底部		3mm以下の鉱物を含む	ナデ	ナデ ハケメ	内面に指頭痕有り。(反転復元)
224	S D 0 7	弥生	壺	胴部～底部		4mm以下の鉱物を含む	ハケメ	ミガキ	外面上に墨斑有り。
225	S B 0 1	軽石製品							粗く面取りされた板状の遺物の一部と思われる。柱穴より出土。

出土遺物観察表 (9)

掲載番号	出土地区	種別	器種	部位	層	胎土	調整		備考
							内	外	
226	S S 0 1	軽石 製品			2 c				粗い研磨により面取りされている。
227	S S 0 1	軽石 製品			2 c				粗い研磨による面取りがなされている。表面に浅い溝状のくぼみが確認できる。
228	S S 0 1	軽石 製品			2 c				粗い研磨により面取りされている。
229	グリッド A 1 1	縄文	壺	底部	1 b	3 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	編布痕	縄文晚形。外面に編布痕有り。
230	グリッド A 9	縄文		口縁部	3 b	1 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	貝殻条痕	縄文晚形。外面勝耗、炭化物付着。 波状口縁か?
231	グリッド A 5	弥生	壺	口縁部	3 b	3 mm以下 の鉱物を 含む	ケズリ後 ミガキ	ミガキ	口縁部に沈線紋有り。内外面とも色 調は明赤褐色。(反転復元)
232	グリッド A 1	弥生	壺	口縁部	3 b	3 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	機械波状紋。(反転復元)
233	グリッド A 6	土蔵器	壺	口縁部	3 b	2 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	古墳時代。刻目突毫有り。刻目に布 縞のような微有り。外面にスズ付着。
234	グリッド A 2 ピット内	土蔵器	高坏	脚部	3 b	2 mm以下 の鉱物を 含む	ナデ	ナデ	S D 0 1 ピットのすぐ近くのピット より検出。測量面が磨耗している。
235	グリッド A 2	染付	小皿	口縁部	3 b				青花 1 6 c
236	グリッド A 2	陶磁器	擂鉢	底部	3 b				蘿摩焼。底部に重ね焼きの目あと有 り。
237	グリッド A 2	陶磁器	椀	口縁部	3 c				備奈焼。
238	グリッド A 9	石器	磨石		3 b				砂岩。
239	グリッド A 1 1	石器	敲石		3 c				敲打痕の反対の面にかすかに新唐森 有り。安山岩。

出土遺物観察表 (10)

* 出土遺物観察表について

層とは、遺構内については、埋土を検出面に近い方から上層・中層・下層とし、床面直上及び貼床除去の際に出土したものは最下層とした。包含層出土のものはP 3 の基本土層に対応している。ただし S T 0 2 出土遺物で用いている* 1 ~ * 6 はP 25 の第27図 S T 0 2 実測図に対応している。

出土遺構	層	測定法	前処理・調整	測定結果 (歴年代・西暦)
S A 0 1	中層	β 線計数法	酸・アルカリ-酸洗浄、ベンゼン合成	B C 4 0 ~ A D 9 0
	下層	加速器質量分析法	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	B C 5 0 ~ A D 3 0
S A 0 2	上層	β 線計数法	酸-アルカリ-酸洗浄、ベンゼン合成	B C 4 0 ~ A D 7 0
	中層	β 線計数法	酸-アルカリ-酸洗浄、ベンゼン合成	A D 1 3 0 ~ 2 6 0 + 2 9 0 ~ 3 2 0
	下層	β 線計数法	酸・アルカリ・酸洗浄、ベンゼン合成	B C 1 1 0 ~ A D 3 0
S A 0 2 ピット	最下層	β 線計数法	酸・アルカリ・酸洗浄、ベンゼン合成	B C 5 0 ~ A D 7 0
	上層	加速器質量分析法	酸・アルカリ・酸洗浄、石墨調整	A D 9 0 ~ 2 2 0
S A 0 3	中層	β 線計数法	酸-アルカリ-酸洗浄、ベンゼン合成	B C 3 5 0 ~ 3 0 0 + 2 2 0 ~ 5 0
	下層	加速器質量分析法	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	B C 3 0 ~ A D 7 0
S T 0 2	下層	加速器質量分析法	酸-アルカリ-酸洗浄、石墨調整	B C 1 1 0 ~ 3 0

炭化物年代測定一覧表



A区 重機による表土剥ぎと廃土の運搬



A区 作業員による包含層の掘り下げ



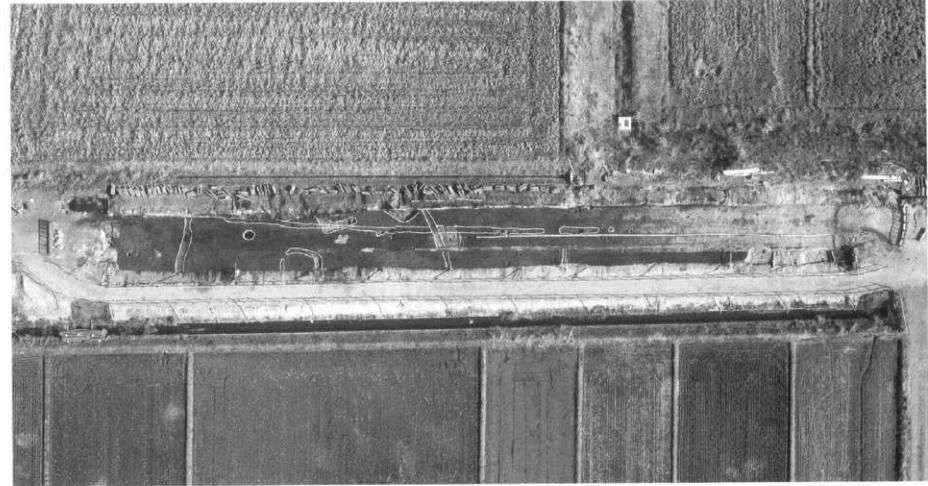
A区 遺構検出（北より）



A区 完掘（北より）

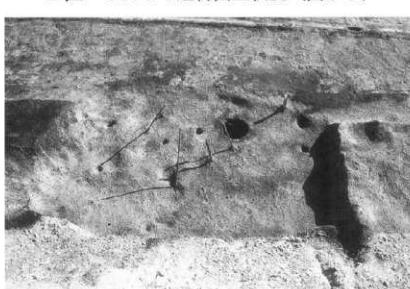
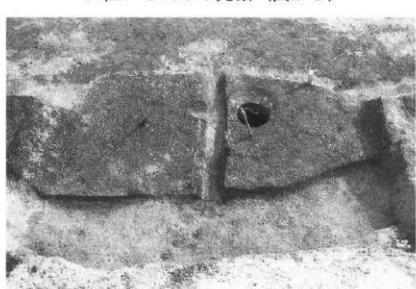
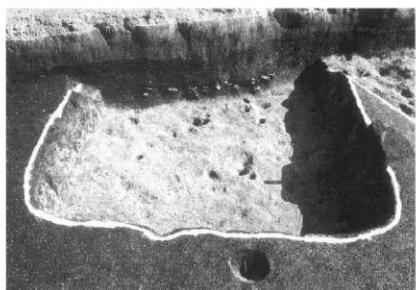
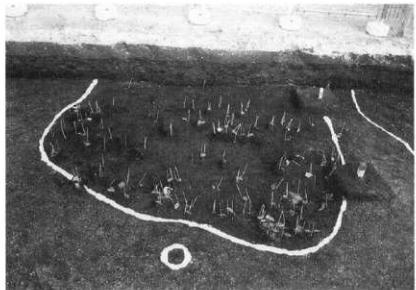


B区 遺構検出（北より）



B区 完掘（写真上が東）

図版 2



図版 3



A区 SA 02 検出（南西から）



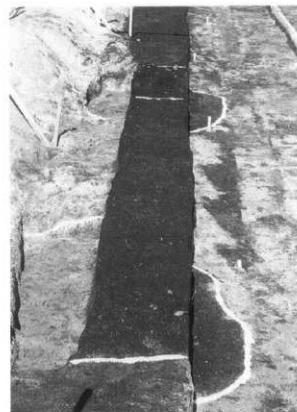
A区 SA 02 遺物出土状況（南西から）



A区 SA 02 床面検出（西から）



A区 SA 02 完掘（西から）



B区 SA 02 検出（南から）



B区 SA 02 床面検出（南から）



B区 SA 02 完掘（南から）

図版 4



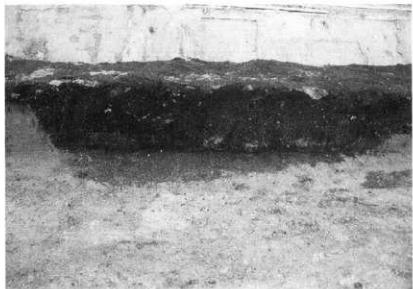
A区 SA 03 遺物出土状況（西から）



A区 SA 03 床面検出（西から）



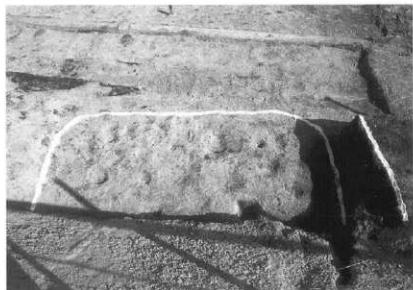
A区 SA 03 完掘（西から）



B区 SA 03 検出（東から）



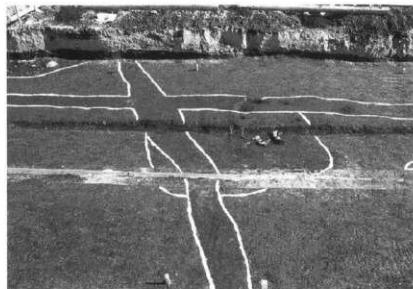
B区 SA 03 床面検出（西から）



B区 SA 03 完掘（西から）



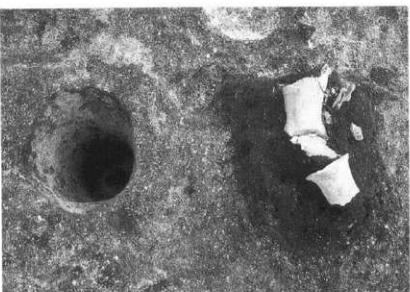
B区 SA 04 遺物出土状況 1（西から）



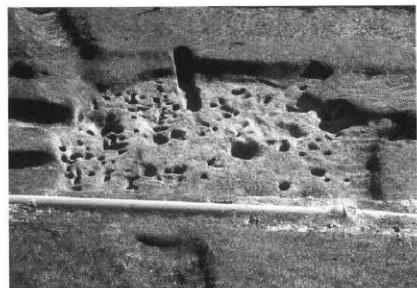
B区 SA 04 検出（西から）



B区 SA04床面検出（西から）



B区 SA04遺物出土状況2（西から）



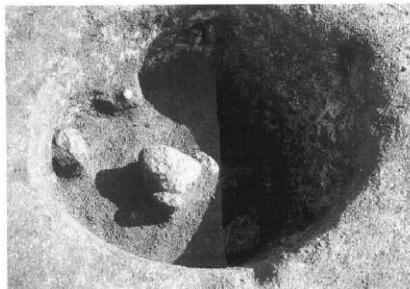
B区 SA04完掘（西から）



A区 SC01遺物出土状況（北から）



B区 SC02検出（西から）



B区 SC02遺物出土状況1（西から）



B区 SC02完掘（北から）



B区 SC02遺物出土状況2（北から）

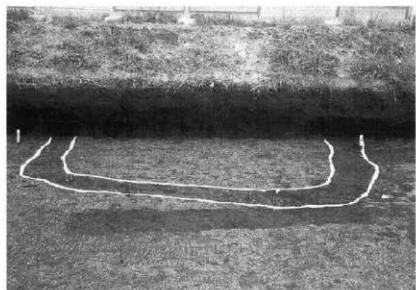
図版 6



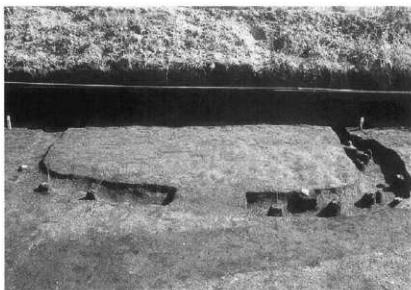
A区 ST 01 遺物出土状況 1 (西から)



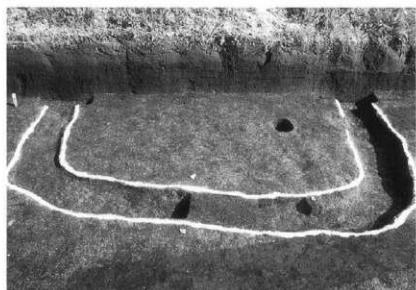
A区 ST 01 遺物出土状況 2 (東から)



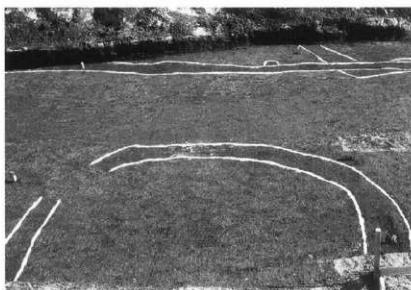
A区 ST 01 検出 (西から)



A区 ST 01 遺物出土状況 3 (西から)



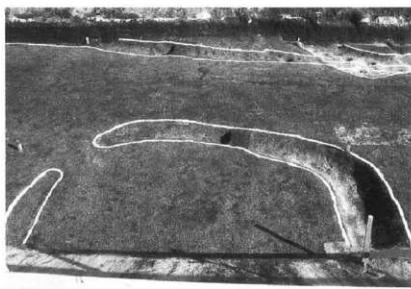
A区 ST 01 完掘 (西から)



B区 ST 01 検出 (西から)



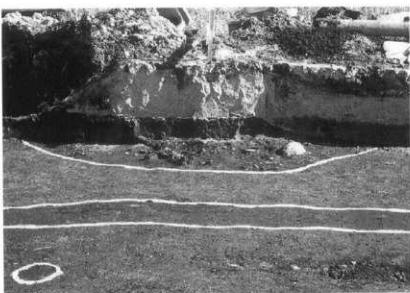
B区 ST 01 遺物出土状況 (南から)



B区 ST 01 完掘 (西から)



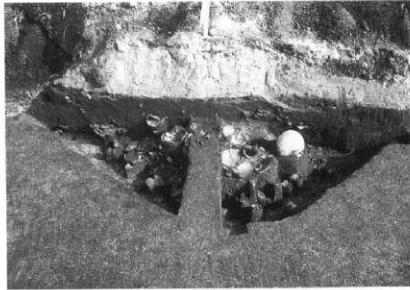
B区 ST 02 遺物出土状況 1 (西から)



B区 ST 02 検出 (西から)



B区 ST 02 遺物出土状況 2 (西から)



B区 ST 02 遺物出土状況 3 (西から)



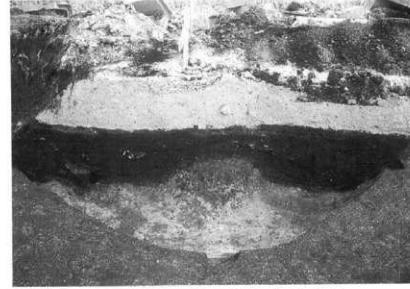
B区 ST 02 遺物出土状況 4 (北西から)



B区 ST 02 遺物出土状況 5 (北西から)

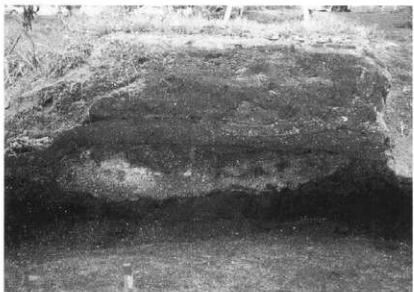


B区 ST 02 土層断面 (南から)

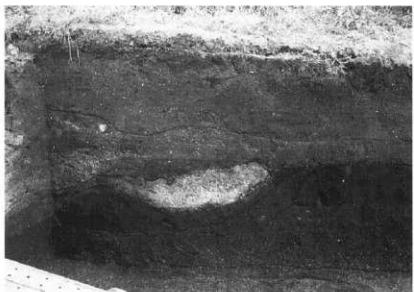


B区 ST 02 完掘 (西から)

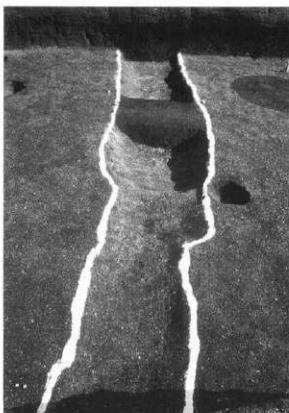
図版 8



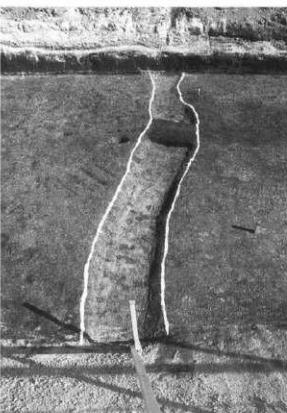
SD 01 断面 (A区調査区枠北側)



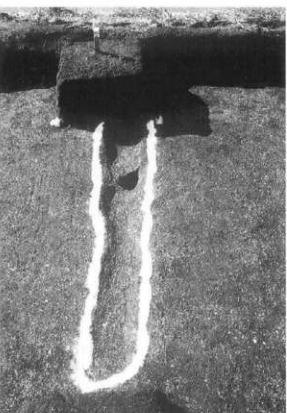
SD 01 断面 (A区調査区枠東側北端部)



A区 SD 02 完掘 (西から)



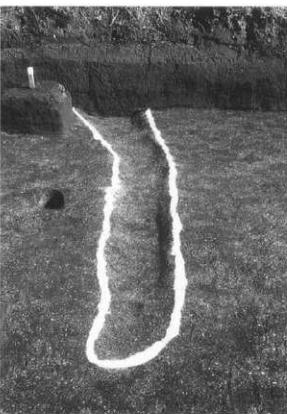
B区 SD 02 完掘 (西から)



A区 SD 03 完掘 (東から)



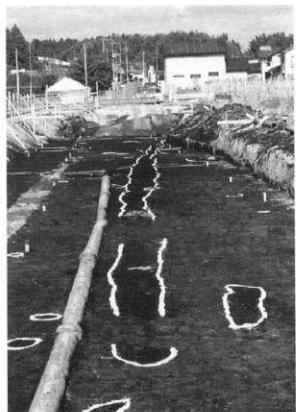
A区 SD 04 完掘 (西から)



A区 SD 05 完掘 (西から)



B区 SD 05 完掘 (西から)



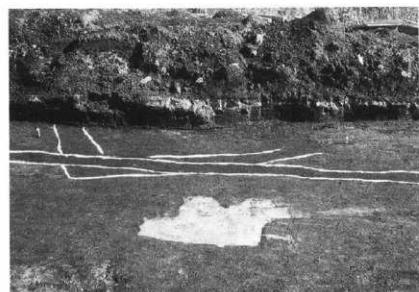
B区 SD06検出（南から）



B区 SD06完掘 1（南から）



B区 SD06完掘 2（南から）



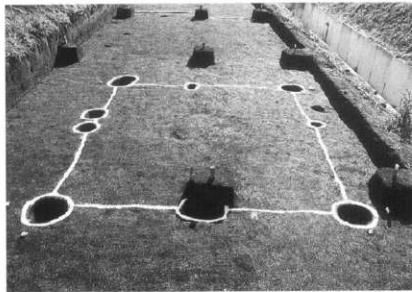
B区 SD07検出（西から）



B区 SD07完掘（西から）



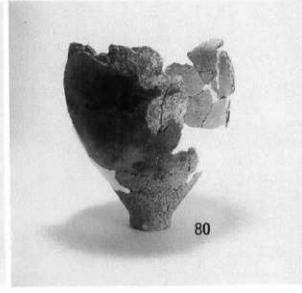
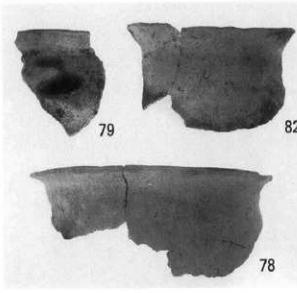
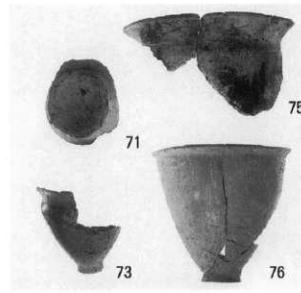
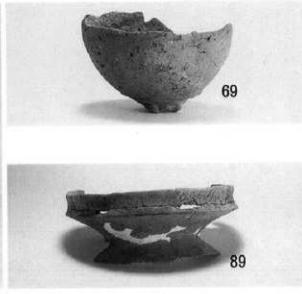
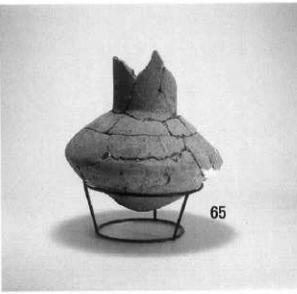
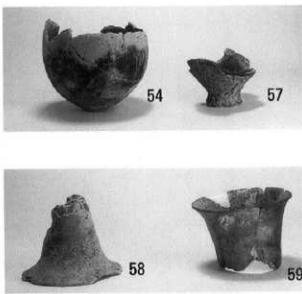
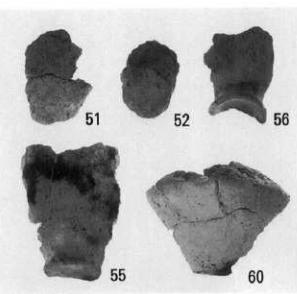
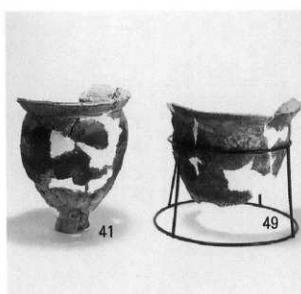
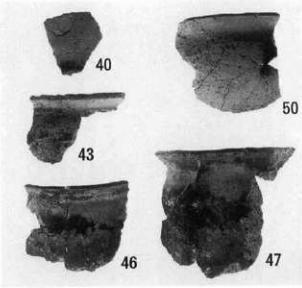
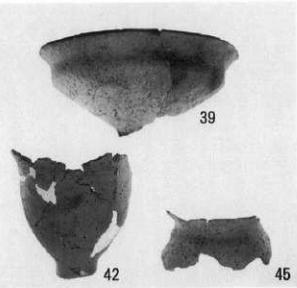
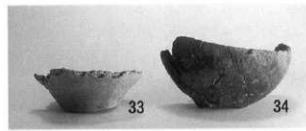
A区 SB01完掘（北から）



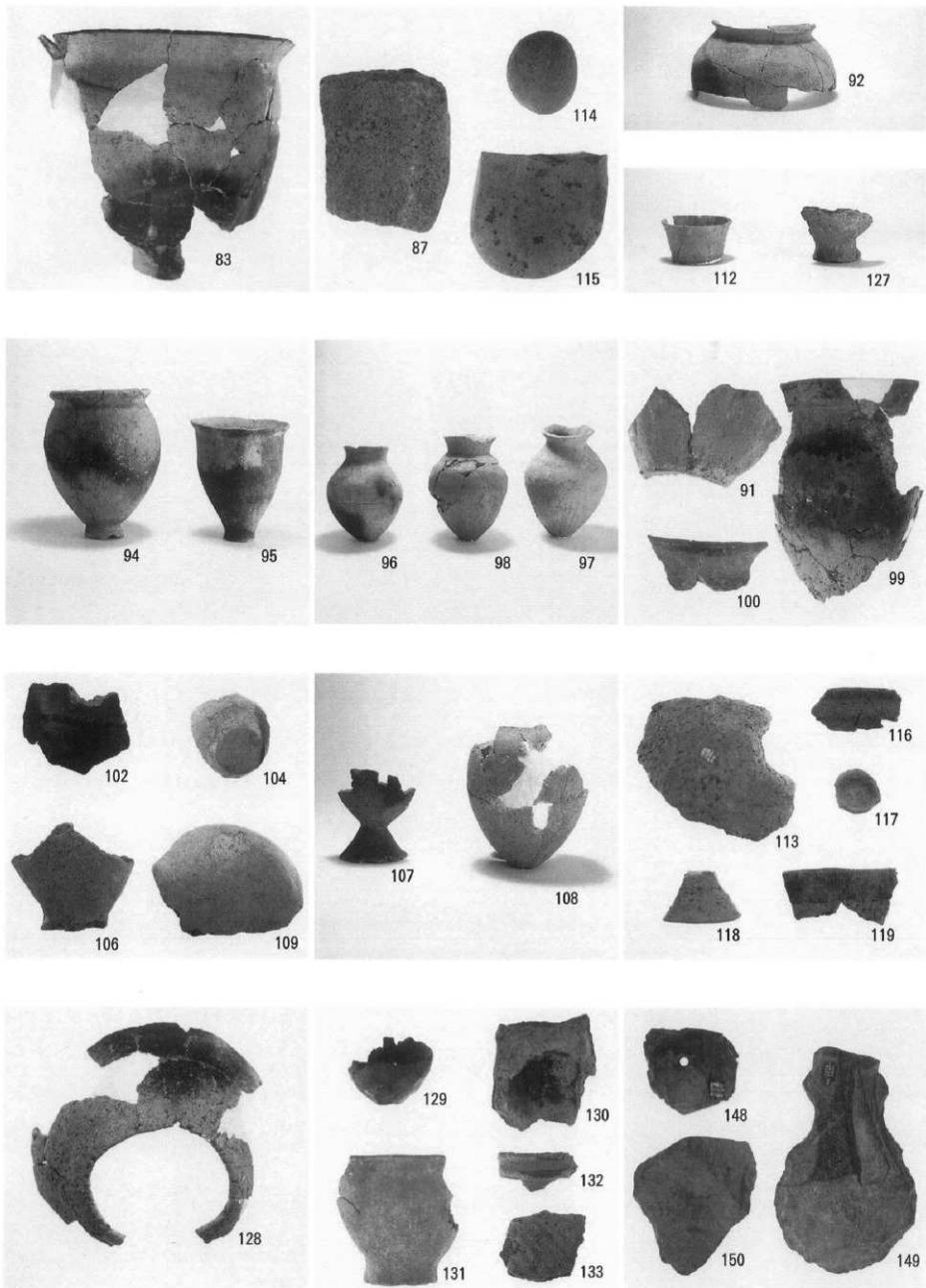
A区 SB02完掘（北から）

図版10

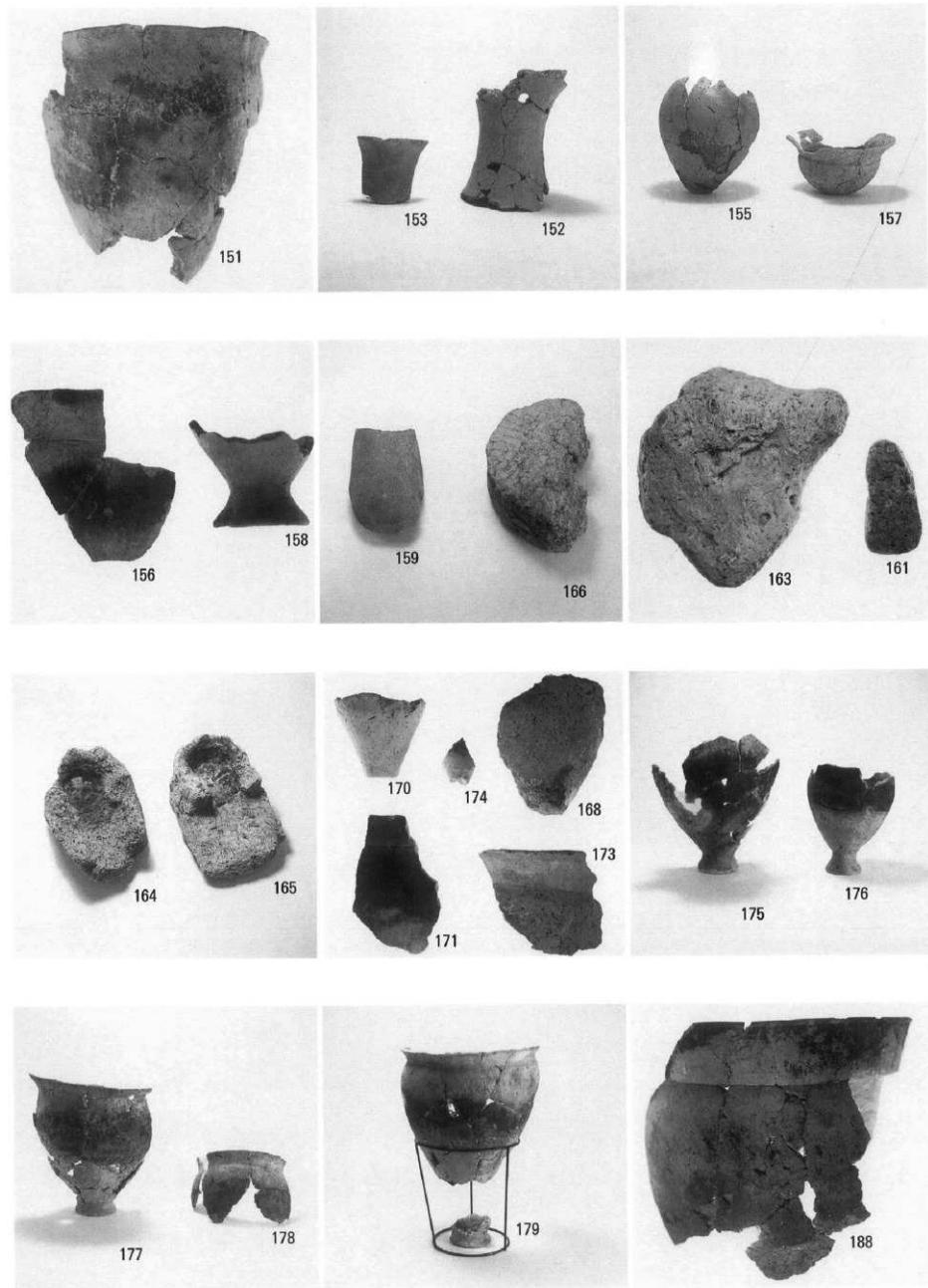




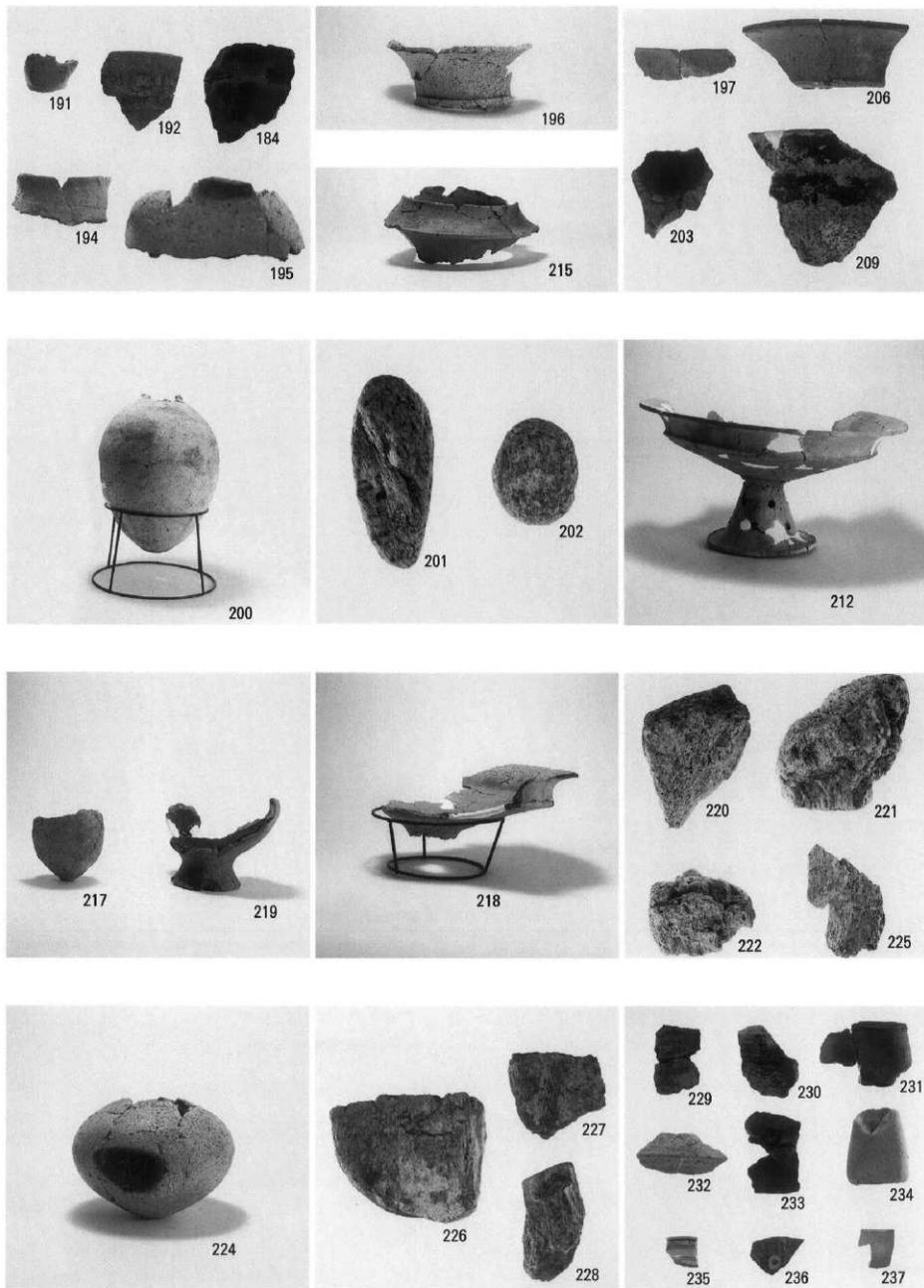
図版12



図版13



図版14



報告書抄録

フリガナ	イマボウイセキ					
書名	今房遺跡（第2次調査）					
副書名						
シリーズ名	都城市文化財調査報告書					
シリーズ番号	第64集					
編集者名	久松亮					
発行機関	都城市教育委員会					
所在地	宮崎県都城市姫城町6街区21号					
発行年月日	2004年3月					
所収遺跡名	所在地	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
今房遺跡	宮崎県都城市 横市町字今房	31° 44' 48" 付近	131° 2' 29" 付近	2002年 10月4日 ～ 2003年 1月20日	約1,500m ²	市道改良 拡幅工事
種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
集落跡	弥生	竪穴住居跡 溝状遺構 周溝状遺構		弥生土器 軽石製品	竪穴住居跡よりレンズ状に堆積した多数の土器片を検出。	

都城市文化財調査報告書第64集

今房遺跡（第2次調査）

2004年3月

編集 宮崎県都城市教育委員会

発行 〒885-8555 宮崎県都城市姫城町6街区21号
TEL(0986)23-9547 FAX(0986)24-1989

印刷 傑文昌堂
宮崎県都城市東町18街区1号
TEL(0986)22-1121
